



平成 26 年度版
学習指導要領を具体化する
小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック

子どもの記述力を高める単元をつくる

「書くこと」編



平成 27 年 3 月
岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当

はじめに

ガイドブック作成の意図

このガイドブックは、小・中・高等学校の先生方に日常の授業づくりに役立ててほしいという思いを込めて作成したものです。

学習指導要領や学習指導要領解説国語編等から、どのような授業が求められているかを読み解き、文部科学省の教科調査官や大学の研究者等の講演や書籍、全国の研究校の公開授業等から具体的な指導法を学び、それらを再構成してこのガイドブックにまとめました。

今回は、昨年度の「読むこと」領域のガイドブックに続けて、「書くこと」領域のガイドブックを作成しました。

授業づくりの現状分析

これまで、岩手県内の各学校において国語科の授業づくりはどのように行われてきたのでしょうか。

国語科を研究主題に取り上げている小学校では、授業づくりは複数の先生方によって協働的に行われ、多くの成果をあげてきました。しかし、それ以外の小学校や中・高等学校では、授業づくりは先生方に任されてきたのが現状ではないでしょうか。一人で授業づくりに取り組み、悩んでいる先生方からは、「国語は何をどのように教えればいいのかがよく分からない」という声を聞くことも少なくありません。また、協働的に研究に取り組んできた小学校においても、「説明文における～」のように分野を特定して研究する 경우가多く、研究した内容が限られた単元にしか汎用できないということも見受けられました。

このガイドブックは、「国語は何をどのように教えればいいのかがよく分からない」という先生方の悩みに応えられるような内容構成となっています。また、「書くこと」領域のすべての単元に汎用できる方法を考え提案しています。

小・中・高等学校での共通した授業づくりの必要性

このガイドブックでは、学習指導要領の趣旨等から考えて、小・中・高等学校の授業づくりに大きな差異はなく、共通した授業づくりをした方がよいという立場をとっています。

児童生徒の学ぶという行為は、校種が変わっても連続しています。しかし、指導者はこれまで、12年間の学びの連続性をあまり意識してこなかったのではないのでしょうか。

例えば、小学校で「グループや学級全体での話し合いを通して自分の考えを文章にまとめるような授業」を受けた児童が、中学校で「先生が正解を黒板にまとめたものをノートに書き写すような授業」を、高等学校で「先生の解説を聞いてノートに書き留めるような授業」を受けていくことを想像してみてください。身に付けさせるべき能力や学び方が、校種ごとに無関係に指導されることによって、自分の能力や学び方を深化させたり発展させたりできない児童生徒の姿が想像できるでしょう。

これを「小学校ではこのようなグループ学習をさせる。中学校ではこのようにグループ学習を深化させる。高等学校ではこのようなグループ学習に発展させる。」と小・中・高等学校の指導者が連携しあって指導したらどうでしょう。児童生徒は容易に学びの連続性を意識し、学び方を身に付け、効率的に国語の能力を身に付けることができるはずです。

そのためには、小学校から高等学校まで身に付けなければならない能力や学び方を系統的にとらえ、どのように教えるのか・学ばせるのかについて、小・中・高等学校の指導者が連携して授業づくりに取り組むことが必要です。このガイドブックがそのきっかけとなることを期待しています。

ガイドブックの構成

このガイドブックは、「Ⅰ 理論編」「Ⅱ 実践編」「Ⅲ 資料編」の三部構成となっています。

「Ⅰ 理論編」では、学校教育の中で国語科が果たすべき役割として、どのような態度や能力を育成すべきなのか、その方向性を示しています。そして、そのためにはどのような指導が必要で、どのような手順で授業づくりをするべきなのかをまとめました。その中で、単元構想の仕方、本時の構想の仕方のモデルとなる学習過程を提案しています。

「Ⅱ 実践編」には、研究協力員の授業実践例を載せました。

「Ⅲ 資料編」には、「Ⅰ 理論編」の根拠となる資料や具体的な説明資料を載せています。

ガイドブックの活用法

国語科では何を指導すればよいのでしょうか。それは、学習指導要領の目標や内容であることは言うまでもありません。ですから、教科書の教材文を読む前に学習指導要領や学習指導要領解説を熟読し、12年間の系統性の中で、指導内容を具体的なレベルまで絞り込んで把握し指導することが必要となります。それが「教材文を教えるのではなく教材文で教える」ことにつながり、「活動あって学びなし」という課題を克服することにもつながります。このガイドブックには、指導内容を系統的・具体的に把握するための工夫がなされています。

さらに、国語科ではどのように指導すればよいのでしょうか。指導法には様々な方法があることは言うまでもありません。それぞれの学校で児童生徒の実態に合わせて工夫することが求められています。しかし、「指導法には様々な方法があるのだからそれぞれが工夫しなさい」と言われても、悩んでいる先生方にとっては困り感が増すばかりです。そこで、授業づくりの一つのモデルとしてこのガイドブックを作成しました。それぞれの先生方がここからヒントを得て、創意工夫を凝らした魅力的な授業づくり・単元づくりをしてくださることを願います。

平成27年3月1日

目次

はじめに

I 理論編

- 1 「書くこと」領域で育成すべき態度や能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 どのような指導が必要か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 3 「授業づくりの手順」と「指導の充実」・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - (1) 目標や内容の系統性を把握する・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - (2) 年間指導計画を工夫する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - (3) 単元を構想する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
 - ◆単元展開の具体について・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
 - ◆「書くこと」の学習過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
 - (4) 本時を構想する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
 - ◆本時の学習過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
 - ◆本時の学習過程の各段階について・・・・・・・・・・15
 - (5) 評価を工夫改善する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

II 実践編

- ◆小学校第6学年 光村；「随筆を書こう」＜平成26年度実践＞・・・・・・・・22
- ◆中学校第3学年 三省堂；「主張文を書こう」＜平成26年度実践＞・・・・34
- ◆高等学校第1学年 大修館；「表現の窓 手紙を書こう」＜平成26年度実践＞・・・・44

III 資料編

- ◆全国学力・学習状況調査における児童生徒の実態から、学校教育法における「教育の目標」と「学力の三要素」、学習指導要領「国語科改訂の趣旨」、第2期教育振興基本計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
- ◆指導系統表の整理例「書くこと」・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
- ◆同一言語活動の系統表例「説明文を書く」・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
- ◆マトリックス型年間指導計画表例（中学校第1学年「書くこと」）・・・・60
- ◆単元構想表の書き方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
- 【引用文献・参考文献】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

おわりに

I 理論編

このページは空白です

1 「書くこと」領域で育成すべき態度や能力

★このガイドブックでは、教育基本法に示されている教育の目的を達成するために国語科「書くこと」領域で育成すべき態度や能力を、大きな視点で次の5つととらえました。

- 1 目的や様式に応じて記述する力
- 2 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる「書くこと」における基礎的な知識及び技能
- 3 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる「書くこと」における思考力、判断力、表現力など
- 4 主体的に「書こう」とする意欲や態度
- 5 他者と協働するためのコミュニケーション能力や学習力

Q1 「育成すべき態度や能力」の意味するものは何ですか？

A1 教育は「人格の完成等」を目的として行われるものです。その目的の達成に向けて、国語科「書くこと」領域で指導すべきものは何かを考えて表したものです。

Q2 なぜ、この5つととらえたのですか？

A2 学校教育法や学習指導要領解説、PISA 調査の報告書、第2期教育振興基本計画（H25.6.14 閣議決定）などから、この5つにまとめました。

Q3 課題を発見する力や解決する力も大切だと思うのですが？

A3 その通りです。上記のとらえでは、学び方を身に付けるという意味で「学習力」と呼び、その中に課題を発見する力や解決する力を含めて考えています。

☞根拠となる資料は、「Ⅲ 資料編(p52)」へ

2 どのような指導が必要か

★「書くこと」領域で育成すべき態度や能力（p1）をはぐくむためには、次のような10項目の指導の充実を図る必要があります。

「読むこと」
編の再掲

指導の充実 10項目

- 1 系統的、発展的な指導（各教科等、各学年相互間の関連）
- 2 効果的な指導（指導内容のまとめ方や重点の置き方）
- 3 言語活動の充実（知識・技能の活用を図る学習活動、言語環境）
- 4 自主的、自発的な学習（体験的な学習、問題解決的な学習）
- 5 見通しと振り返り
- 6 学習形態（個別指導やグループ別指導）や指導方法（課題学習、発展的な学習）
- 7 学校図書館の利用（主体的、意欲的な学習活動、読書活動の充実）
- 8 評価の工夫（よい点や進歩の状況などの評価、過程や成果の評価、指導改善、学習意欲の向上）
- 9 言語の教育としての立場を一層重視
 - 的確に理解する能力
 - 論理的に思考し表現する能力
 - 言葉で伝え合う能力
 - 感性や情緒
- 10 実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力の育成

1～8は、学習指導要領解説総則編「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の解説から、9と10は、学習指導要領解説国語編「国語科改訂の趣旨」から導き出したものです。

1～10について、授業づくりのどの段階で、どのような手立てで充実を図ればよいのかについては、次ページからの「授業づくりの手順」で解説しています。



3 「授業づくりの手順」と「指導の充実」

「読むこと」
編の再掲

p2 「指導の充実 10項目」

(1) 目標や内容の 系統性を把握

p 4～5

○学習指導要領解説国語編から 12
年間の指導系統表を整理する

1 系統的、発展的な
指導

(2) 年間指導計画 を工夫

p 6

○指導の効果を考えて、マトリッ
クス型年間指導計画を作成する

2 効果的な指導

(1)と(2)は、年度末ま
でにまとめておく必要
があります。



指導と評価は一体だ
から、指導計画は評価
計画でもあることを意
識してください。

(3) 単元を構想

p 7～12

○系統性と年間指導計画をふま
えて、単元を貫く言語活動を位置
づけた構想をする



単元を構想する際
に、優れた実践はど
んどん真似して取り
入れていきましょう。

3 言語活動の充実

4 自主的、自発的な
学習

5 見通しと振り返り

6 学習形態や指導方法

7 学校図書館の利用

8 評価の工夫

9 言語の教育としての
立場

10 実生活で生き、各教科
等の学習の基本

(4) 本時を構想

p 13～17

○単元の指導計画のもと、学習場
面における言語活動の充実を意
識して本時を構想し、実践する

(5) 評価を工夫改善

p 18～21

○指導を振り返り授業改善に生か
す視点を大事にする
○指導に生かすための評価と記録
に残すための評価を行う
○適切な評価問題を開発する

3- (1) 目標や内容の系統性を把握する

★授業づくりの第一歩は、児童生徒の実態を把握し、指導すべき事項を確定することです。12年間の目標と内容を表に整理することで、指導すべき事項が明確になります。

【小学校「C 書くこと」の系統表】

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目 標	(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて分野文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。	(2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。
	(1) 前段＝書く能力 後段＝書く態度 (全学年共通) (2) 高学年までに目的や意図に応じて適切に表現する能力を育成する⇒日常生活に生きて働くようにする⇒他教科等の学習活動と関連付け、書くことが役に立つ場を設定	(3) 相手や目的を強く意識しながら課題を設定したり、取材をしたりすることが重要 (4) その場を共有しない特定又は不特定の人を想定 ⇒話す・聞くことの言語活動よりも難しくなる⇒中学年から (5) 書く相手 ①保護者や地域の人々などの大人から、同学年・異学年の友達まで多様 (6) 書く目的 ○伝える、報告する、説明する、依頼する、案内するなど、具体的な生活の中で必要となるものを取り上げる (7) 「調べたことなど」 ①各教科等の学習の中で、様々なことを調べたり、観察したり、見学したりなどの機会が増えるから ②①の活動を通して興味や関心を抱いたり、疑問に思ったり、想像したりしたことなどを取り上げて書く (8) 「段落相互の関係など」に注意して文章を書く能力を身に付けさせる ○文章構成の中核となる段落相互の関係について理解し、それに基づいて書くべき内容を構成したり記述したりする (9) 「工夫をしながら書こうとする態度を育てる」 ○これまで身に付けてきた書くことの能力を活用する能動的な態度	(3) 「目的や意図に応じ」る ①児童の主体性や個性が活まり、目的を明確にすることが必要 ②自分の意図を明確にして書く ③特定の相手・相手の意図を明確に把握する 不特定の相手・読者によって違った受け止め方があることなどにも気付くようにする (4) ほとんどの考えを書くことへと発展させている (5) 「文章全体の構成の効果を考えて文章を書く能力」 ①自分の考えたことなどの中心的内容を明確にする ②文章全体の構成を考えて表現する ③文章の種類に応じ、効果を考えながら、読み手にもよく理解できるように構成する (6) 「適切に書こうとする態度を育てる」 ①書く目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、考えたことを十分に反映させ、文章全体の構成を考えながら適切に書いていく ②記述の段落だけでなく、課題設定や取材の段階も含める

Q1 この系統表はどのように整理したのですか？

A1 学習指導要領解説国語編の付録の表に本編の解説を加えたものです。

Q2 このように表を整理するとどんなよいことがあるのですか？

A2 例えば、上の表で目標を見ると、構成について、低学年では「順序を整理し」、中学年では「段落相互の関係」、高学年では「文章全体の構成の効果」のように段階的に指導すればよいことが読み取れます。
このように、指導事項についても各学年でどのように指導すればよいかについて、具体的に把握することができるようになります。小学校、中学校、高等学校を読み比べることで、その学年の指導事項を具体的につかむことができます。指導しようとする指導事項をマークし、それに関連する指導事項を学年や校種を超えてマークしていくことで、指導すべき内容がより明確になっていきます。

⇨12年間の系統表は、「Ⅲ 資料編(p53～58)」へ

★下の表のように系統表を整理すると、「説明文を書く」という同じ言語活動でも、系統性がとらえやすくなり、学年に応じ段階的に指導をすることが可能です。

【小学校 同一言語活動での系統表例】

同一言語活動の系統表例 「説明的文章を書く」												
段階	課題設定	取材	構成	記述	推敲	交流						
小学校 低学年 説明文	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事物（のりもの、おもちゃ、生きもの、人物、好きなこと…） ○各教科等の学習、学校生活や家庭生活で慣れ親しんでいる事物 ○経験したこと、感動したこと、疑問に思ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○思い出す ○想像する ○ノートやカードにメモ 	<ul style="list-style-type: none"> はじめ 説明する事物（ものの名前、理由） 問題提起（問いかけの言葉） なか 事柄の順序（手順、理由、例…） つなぎ言葉 おわり 全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い 	<ul style="list-style-type: none"> ○一文の意味が明確になるように ○語と語や文と文とのつながりも考えさせる ○長音、拗音、促音、撥音などの表記ができる ○助詞「は」「へ」「を」の使い方 ○句読点、かぎ（「」）の使い方 ○主語と述語の関係 ○敬体に慣れる 	<ul style="list-style-type: none"> ○話題や取材の絞り方、事柄の順序、語と語及び文と文とのつながりの明確さ ○語句の使い方などに注意しながら、一文一文を丁寧に読み返す ○記述の間違いなどに気が付き、直す 	<ul style="list-style-type: none"> ○書いたものを読みあい、感想を伝え合う ○書いてきた過程の全体を、読んでもらった相手の感想を受けて振り返る 						
小学校 中学年 資料を使った 説明文	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に興味や関心をもっていること（遊園地、道具の使い方、手品のタネ…） 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手（その場を共有しない特定又は不特定の人）や目的を意識し、必要なことを調べる ○一層知識を得るなど、必要なことを取材する ○本や文章、リーフレット、インタビュー、具体物などから適切な方法を選択 	<ul style="list-style-type: none"> ○リーフレット等の様式 ○説明文の様式 <table border="1"> <tr> <td>はじめ</td> <td>話題提示 問題提起 まとめ</td> </tr> <tr> <td>なか</td> <td>段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由や根拠</td> </tr> <tr> <td>おわり</td> <td>全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い</td> </tr> </table>	はじめ	話題提示 問題提起 まとめ	なか	段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由や根拠	おわり	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことと自分の中心を明確にする ・文章全体の中心となる内容 ・中心となる段落 ・各段落の内容の中心 ○目的や必要に応じて、中心に対して ・原因や理由（なぜかという～、その理由は～、～のためである） ・分かりやすく説明するための事例（エピソード、実例、事物⇒例えば～、事例を挙げると～、～などが当たる） ○常体と敬体（文末表現） ○段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は改行する 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導事項ア～エを基に推敲の視点を明確にする ○主語と述語、修飾語と被修飾語の関係の明確さ ○長音、拗音、促音、撥音、助詞などの表記の仕方 ○文末表現（敬体と常体、断定や推量、疑問など） ○相手や目的に応じているか ○自分の考えを明確に記述しているか ○下書きと推敲後の文章を比べる 	<ul style="list-style-type: none"> ○推敲して書き終えた文章だけでなく、学習計画や取材、構成の段階のメモなど、学習過程についても発表し合う ○相手について配慮したことや、記述の仕方で工夫したことも紹介する ○自分の考えがなぜそのような考えに至ったのかというきっかけについても交流する
はじめ	話題提示 問題提起 まとめ											
なか	段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由や根拠											
おわり	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い											
小学校 高学年 課題→ 調査→ 意見文 (提案) 報告文 議論	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域、学校生活での学習などで感じたり考えたりしたこと ○比較したり関係付けたりしながら課題意識を明確にしていく ○目的や意図から話題を考えることもあれば、以前からの疑問や課題から目的や意図を設定することもある 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、取材の内容や方法を考える ○情報検索したり取材したりした事柄を、構成や記述に役立つように整理する ○取材の対象や方法 ・本や文章 ・パンフレット ・雑誌や新聞 ・音声や映像 ・インタビュー ・アンケートなど 	<ul style="list-style-type: none"> ○頭括型、尾括型、双括型 ○考えを一貫して述べる ○冒頭部や終結部の書き方の工夫 <table border="1"> <tr> <td>冒頭部</td> <td>話題提示（読み手の関心を喚起する事例） 問題提起 まとめ（概説や要約）</td> </tr> <tr> <td>展開部</td> <td>段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由や根拠</td> </tr> <tr> <td>終結部</td> <td>全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い</td> </tr> </table>	冒頭部	話題提示（読み手の関心を喚起する事例） 問題提起 まとめ（概説や要約）	展開部	段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由や根拠	終結部	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い	<ul style="list-style-type: none"> ○「事実」と自分の感想、意見などと区別して書く ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見などを詳しく書いたり、簡単に書いたりする ○出来事などの描写と、科学的な観察や実験、調査結果の説明などの表現の違いを工夫する ○引用（「」でくくる） ・自分の考えを根拠付けたり、具体的な例を示したりする ・原文に正確に行う ・引用した部分と自分の考えとの関係を明確にする ・出典を明記する ・適切な量 ○図、表、グラフ（調査結果等）⇒引用する場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを明確に表しているか ○相互関係が明確な構成か ○表現の曖昧さ ○読者が理解しやすいようにさらに改善できる部分 ○読み手の立場から文章を客観的に評価する ○自己評価に加えて相互評価を積極的に位置付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表＝記述内容に加え ・書くことと意図 ・誰に、どのような目的 ・どのような表現を用いたのかを述べる ○助言 ・目的や意図に応じた文章構成や表現になっているか ・修正すべき内容 ・具体的にどのように書き換えればよいか ・自分の考えを深めたり表現の参考にしたりする ○よさを感じ取れることを大切に
冒頭部	話題提示（読み手の関心を喚起する事例） 問題提起 まとめ（概説や要約）											
展開部	段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由や根拠											
終結部	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い											

Q1 上の系統表はどのように整理したのですか？

A1 指導事項と学習指導要領解説国語編本編から、説明文を書く場合に絞って、「課題設定」「取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」の学習過程に沿った学習内容をまとめたものです。

Q2 この表を整理すると、どんなよいことがあるのですか？

A2 例えば、「はじめ・なか・おわり」という同じ構成の指導でも、段階に応じてどのように指導するべきかが明確になります。低学年では「なか」における説明の順序、中学年では「なか」における段落相互の関係、高学年では「はじめ・なか・おわり」における頭括・尾括・双括などの構成の効果に視点を当てて指導すればよいことが分かります。

☞同一言語活動での系統表例は、「Ⅲ 資料編(p59)」へ

3-(2) 年間指導計画を工夫する

★年間指導計画は児童生徒の実態に応じて、目標と指導事項の関連を十分研究し、まとめ方を工夫したり軽重を加えたりして、効果的に位置付ける必要があります。

【中学校第1学年 マトリックス型年間指導計画表例】

月		6月	8月	12月	2月
時数（年間30～40時間）		5	5	10	10
教科書教材名					
4月		分かりやすく説明しよう 観点を決めて書く	項目を整理して伝えよう 案内文をつくる	調べたことを報告しよう レポートにまとめる	感じたことを文章にしよう 鑑賞文を書く
5月					
6月	分かりやすく説明しよう～観点を決めて書く				
7月					
8月	項目を整理して伝えよう～案内文をつくる				
9月					
10月					
11月					
12月	調べたことを報告しよう～レポートにまとめる				
1月					
2月	感じたことを文章にしよう～鑑賞文を書く				
3月					
(1) 指導事項		紹介文	案内文	報告文	鑑賞文
課題設定や取材	ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。	○		◎	○
		○		○	○
構成	イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。	○	○	○	○
		○			◎

Q1 このマトリックス型の年間指導計画表は、どうやって作成したのですか？

A1 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考にして作成したものです。

Q2 このような表を作成すると、どんなよいことがあるのですか？

A2 このようなマトリックス型の表を作成することによって、指導事項の欠落が生じないようにすることができます。
 例えば、上の表でいうと中学校1年生では、「課題設定や取材」の指導事項では、「日常生活から課題を決める」能力や、「材料を集めながら考えをまとめる」能力を身に付けさせなければならないことを認識することができます。

☞マトリックス型年間指導計画表例の全体像は、「Ⅲ 資料編(p60)」へ

3-(3) 単元を構想する

Q1 「単元を構想する」と言っても、教科書通り、指導書通りに教えればよいのではないですか？



A1 授業は、児童生徒の興味・関心や身に付いている能力などの実態に応じて、その児童生徒を受けもつ先生が、学習指導要領の目標や内容を達成するために行うものです。ですから、国語の場合は、教科書を中心としながら、どのような題材を使って授業をつくっていくかは、それぞれの先生方が考えなければならないことなのです。

Q2 そんなことを言われても、単元を構想するなんて難しいのです

A2 そうですね。そういう人のために、このガイドブックでは、素晴らしい実践をなさっている全国の先生方の単元のつくり方や学習指導要領「書くこと」の指導事項の構成を参考にして、それをパターン化してみました。でも、これは、こうすれば必ず上手くいくというマニュアルではないので、あくまでも単元づくりをする時のヒントとして考えてください。

Q3 「単元のつくり方のパターン」って、どうやってパターン化したのですか？

A3 それぞれの先生方の単元の指導計画や指導事項の構成から共通性を見つけて、それをもとに12段階の学習過程としてまとめました。

Q4 12段階って、とても多くて時間がかかりそうなのですか？

A4 12段階と言っても、各段階を均等の時間を使って行うわけではなく、短時間で指導できる段階とたっぷり時間をかけなければならない段階とがあります。12年間継続して指導することで、指導時間が短縮される段階も出てくるはずですよ。



単元展開の具体について

★このガイドブックでは、単元の段階を3段階と考え、単元の導入を第1次、単元の展開を第2次、単元の終末を第3次と呼んでいます。また、これに加えて、単元の学習（授業）に入る前段階を第0次、単元の学習（授業）後あるいは、発展的段階を第4次と呼んでいます。

「読むこと」
編の再掲

【第0次】とは

- ◆単元の学習に入る前段階にあたります。すべての単元に位置付ける必要はありませんが、児童生徒を単元の学習に誘う段階としての工夫が求められます。
- ◆単元の学習に入る前に、単元の言語活動や教材について児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容について考えさせたり予備知識をもたせたりする工夫が考えられます。

【第1次】とは

- ◆単元の導入にあたります。単元が、児童生徒にとってひとまとまりの意味のある学習活動となるように、単元の学習に誘う必要があります。
- ◆児童生徒の興味・関心を高める工夫や、児童生徒に単元の学習過程や学習方法、モデルを提示することによって学習のゴールを見通させる工夫が求められます。

【第2次】とは

- ◆単元の展開にあたります。「書くこと」の学習では、書くことの力を身に付けさせるための重要な段階になります。
- ◆「単元を貫く言語活動」と本時の学習活動が密接に結び付くように学習展開を工夫することが求められます。また、「相互交流」を大切にする必要があります。

【第3次】とは

- ◆単元のまとめにあたります。単元の学習を振り返り、自分にとって何が身に付いたのか、何を知ったのか、もっと知りたいことは何か、などについてまとめる段階です。
- ◆言語活動のまとめの段階でもあります。作品を通して交流を深め、学習の達成感を味わわせるように指導することが大切です。

【第4次】とは

- ◆単元の学習後の段階や、発展学習の段階にあたります。すべての単元に位置付ける必要はありませんが、児童生徒の国語に対する興味・関心を高めたり、実社会に役立つ有用感を味わわせたりする段階として工夫が求められます。教室を飛び出した学習とも言えます。
- ◆学級の学びを同学年や他学年に広げたり、家庭や地域に広げたりすることが考えられます。大切なのは発信するだけでなく、受け手の感想など学習に対する評価を、児童生徒にフィードバックすることです。

「書くこと」の学習過程

【書くことの学習過程】

第一次

- 1 学習課題（目的・相手）を設定する
- 2 表現様式上のモデル学習をする
- 3 学習計画を立てる

第二次

- 4 個人課題を選択する
- 5 取材する
- 6 モデルの構成や表現を分析する
- 7 構成を考える
- 8 記述する
- 9 推敲する
- 10 清書する

第三次

- 11 相互交流する
- 12 単元の学習を振り返る

いよいよ、具体的な「書くこと」の単元構想について解説を始めます。



「書くことの学習過程」の各段階について

★「書くことの学習過程」の12段階について具体的に解説します。

1 学習課題（目的・相手）を設定する

この段階は単元の第1次（導入）の序盤にあたります。

- ◆児童生徒主体の学習とすることができるかどうか教師の腕の見せ所です。
- ◆「過去にどのような様式の文章を書き、どのような学習（言語活動）をしたのか、過去の経験は今回の学習とどのようなつながりがあるのか、今回の学習内容に照らして何を知っているか」について児童生徒自身に振り返らせ、単元の目標を意識した学習課題を設定（＝目的・相手の確認）する必要があります。
- ◆「何のために文章を書くのか」を確認し、「何を伝えたくて書くのか、今回の単元でプラスする能力等は何か」について押さえます。
- ◆単元の導入段階では、児童生徒に自分の表現力を確認させる工夫も考えられます。表現力を確認するとは、この単元で取り組む言語活動をさせてみるということです。今の時点の力で表現することで個々の課題が明らかとなり、学ぶべき事柄が明らかとなる場合があります。その際、手本となるモデルと比べさせることは課題を見付けることにつながります。

2 表現様式上のモデル学習をする

この段階は単元の第1次(導入)の中盤です。

- ◆「表現様式上のモデル学習をする」とは、単元のゴールを知ることで、単元の学習を通して、どのような様式の文章が書けるようになればよいのか、どのような目的で書くのかを見通すことが、学習意欲を高めることにつながります。
- ◆モデルを読んで、どのようなものを書くのか大まかな枠組みをとらえることが、この段階の目的となります。
- ◆文章には種類によって様式があります。その様式に応じて教師がモデルを作成したり、児童生徒の実態にふさわしいモデルを社会生活の中から見つけて提示したりし、児童生徒に様式を意識させることが重要です。
- ◆魅力的なモデルによって、「こういうふうに表示したい」という表現意欲を高めることが単元の学習の成否のカギとなります。

3 学習計画を立てる

この段階は単元の第1次(導入)の終盤です。

- ◆単元のゴールをイメージできたら、児童生徒に過去の学習経験を参考にさせながら、学習計画を立てさせる必要があります。「書くこと」においては、課題選択、取材、構成、記述、推敲、清書、交流が基本的な過程となります。
- ◆学習計画を児童生徒どうして協議させることが、学習力(学び方、課題を発見する力や解決する力)を高めることにつながります。
- ◆児童生徒に学習経験が少ない実態がある場合、教師が学習計画を導くことも段階的指導としては必要です。例えば、学習過程をカードで示し、児童生徒自身がカードを並べ替えて学習過程をつくることも一つの工夫となります。
- ◆何人かが共同で書く場合には、編集会議を行います。

4 個人課題を選択する

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆第1次の第1時で設定した学習課題を受けて、個人課題を選択する段階です。例えば、「社会人としてふさわしい手紙の書き方を身に付けよう」という学習課題を受けて「お世話になった〇〇先生に感謝の気持ちが伝わる手紙を書こう」という個人課題を選択することになります。
- ◆個人課題は個人の選択任せにするのではなく、学習課題に沿ったふさわしい個人課題なのかどうか、児童生徒相互の交流や教師からの働きかけによって吟味させる工夫も考えられます。この段階を丁寧に扱うことが、その後の学習の充実につながります。
- ◆取材可能な課題であるか、解決可能な課題であるかなど、学習計画とあわせて適切な個人課題を選択させる必要があります。
- ◆何人かが共同で書く場合には、編集会議を行います。

5 取材する

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆個人課題が決まったら、課題を解決するために必要な情報を収集します。
- ◆取材には時間がかかることが多いため、単元の学習過程とは別に、単元の学習に入る前から予告をして情報を日常的に収集するような指導も考えられます。例えば、「社会生活の中から課題を見つけ、意見文を書く」という単元を考えるときには、単元の学習に入る前から関心のある事柄について新聞をスクラップさせておくなどの工夫が考えられます。
- ◆取材は、構成や記述の段階になって精選できるよう、より多くの情報を集めさせることが大切です。必要に応じて、情報を整理しながら集めさせましょう。
- ◆取材方法も、思索する、資料に基づく、インタビューする、実験する、検索するなど多様な方法が考えられます。

6 モデルの構成や表現を分析する

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆第2段階で表現様式や単元のゴールをとらえるためにモデル学習をしましたが、今回は自分の構成や記述に生かすためにモデルを分析します。第1次で示したモデルに、この段階で新たにモデルを加えることも考えられます。
- ◆構成や各段落に書かれている要素、文の特徴や文末表現など、「読むこと」の指導で培った力を発揮させ、分析的に読み取らせます。
- ◆モデルの構成や表現を自分に生かしたい部分と、自分はこうしたいという思いを大切にします。

7 構成を考える

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆モデルの構成を参考にしながら、取材した情報を整理して構成を考えます。構成を考えた時に、足りない情報があれば、再取材することも考えられます。
- ◆表現様式に応じた構成となるように十分に指導します。
- ◆構成の段階で、児童生徒の構想を相互に交流し合うことも有効です。

8 記述する

この段階は単元の第2次(展開)の中盤です。

- ◆表現様式に応じた記述の留意点を確認し、児童生徒が考えた構成に従って記述させます。
- ◆優れた叙述を日常的にとりためたり多くの語彙を提示したり、類義語や語句の言い換え、表現技法などの指導をしたりすることが、記述力を向上させることにつながります。
- ◆この段階は、下書きとして完成させるまでの段階です。最初は多めに書かせ、二度目、三度目と精選させながら下書きさせる方法もあります。書き直すことで、児童生徒は推敲しながら記述することになります。

9 推敲する

この段階は単元の第2次(展開)の終盤です。

- ◆完成した下書きを読んで推敲します。「漢字や語句の使い方」「構成」「よりよい表現」「分かりやすさ」など、各学年の指導事項や単元の目標と照らし合わせて、推敲の視点を明確にすることが大切です。
- ◆推敲の方法として、自分の文章を推敲する場合と、相互に推敲しあう場合が考えられます。
- ◆推敲する場合には、文章が書かれた目的や相手を意識して、書き手としての推敲だけでなく、受け手として推敲することが重要となります。

10 清書する

この段階は単元の第2次(展開)の終盤です。

- ◆推敲したものをもとに清書します。表記上の間違いがないようにすることも大切ですが、丁寧に文字を書くことにも重点を置いて指導します。
- ◆清書する段階は、推敲の最終段階の役目があることを児童生徒に意識させて指導します。

11 相互交流する

この段階は単元の第3次(終末)の序盤です。

- ◆書いたものを読み合い、その内容について自分の考えを交流するとともに、「題材のとらえ方」「材料の使い方」「根拠の明確さ」「構成」「展開の仕方」「表現の仕方」などの中から観点を具体的に示し、自分の表現に役立てることを目的とした交流とすることも大切です。
- ◆相互評価と同時に、自己評価させることが重要です。

12 単元の学習を振り返る

この段階は単元の第3次(終末)の終盤、単元のまとめです。

- ◆単元を通して、何を学んだか、上手く「書くこと」ができたか、今後の「書くこと」に生かしたいことや継続して考えたいことは何か、分からなかったこと・できなかったことは何か等の成果や課題を確認し、達成感を高めたり学習意欲を喚起したりするとともに、次単元への課題を明らかにすることで、学びの連続性を意識させる段階です。
- ◆完成した作品だけで振り返らせることをせず、学習過程の各段階における成果や課題について振り返らせることが大切です。

3-(4) 本時を構想する

Q1 本時を構想すると言っても、これまでの考え方と大きな違いがあるのですか？

A1 授業づくりの考え方として、これまでと大きな違いはありません。45分～50分の授業で、児童生徒に、自分たちで考えさせたり交流させたりすることや、全員に同じ質の学習活動を保障することや、今日学ぶ内容や学び方が分かって自ら動いて学習できるようにさせること、先生がしゃべりすぎたり説明しすぎたりしないことが大切です。

Q2 当たり前なことだけど、難しい。どうしたらいいのでしょうか？

A2 そうですね。ですから、このガイドブックでは、「見通し」「学習モデル」「学習形態」「振り返り」の4つをキーワードにして、本時の学習過程を9段階にして示してみました。

Q3 ええっ～。9段階もあるのですか。時間内に終わらないのでは？

A3 9段階といっても、均等に時間をかけるわけではありません。それに、前時からの流れで省略できる段階もありますので、毎時間が9段階というわけではないのです。

Q4 すべての時間に共通する学習過程にはできないということでしょうか？

A4 そうです。でも、「学習課題」「学習の見通し」「課題解決に向けた言語活動」「課題解決」「学習の振り返り」という過程を踏むことと、「ひとりで」「ペア・グループで」「みんなです」という学習形態を工夫することは、すべての時間に共通して取り組むべきことです。

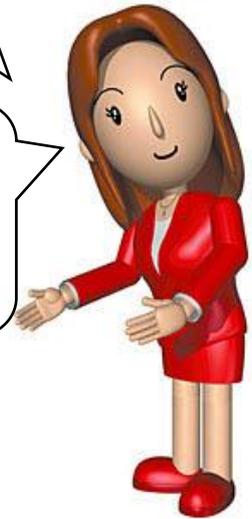
本時の学習過程

【本時の学習過程】

- 1 単元の学習過程の確認
- 2 本時の学習課題の設定
- 3 既習内容や本時の学習内容の確認
- 4 本時の学習過程の確認
- 5 表現モデル・活動モデルの確認
- 6 個人での学習
- 7 グループ・全体での学習
- 8 個人でのまとめ
- 9 本時の振り返り

一番大事なのは、児童生徒が考えたり、表現したり、交流したりする時間をしっかり確保することです。先生ばかりがしゃべっている授業はやめてください。

学習過程通りにやるのが最優先ではないので注意してください。



【本時の学習過程イメージ】

学習内容（何を）と、学習活動（どのように学ぶのか）の確認

学習形態の工夫による児童生徒主体の学習活動

- ひとりで学ぶ
- ペア・グループで学ぶ
- みんなで学ぶ

言語活動充実の工夫

- 学習掲示の整備
- 学習シートの工夫
- 読書環境の整備

学習内容と学習活動の自分にとっての意義を振り返る

【導入】 5～10分

活動	ポイント
○児童生徒が確認する ○教師が説明・指導する	○本時の学習過程を学習形態と学習内容、配当時間で示す

【展開】 25～35分

活動	ポイント
○児童生徒が言語活動を行う ・ひとりで学ぶ ・ペアやグループで学ぶ ・みんなで学ぶ ○教師は言語活動を支援する	○言語活動を高めるために、学習掲示や学習シートを工夫する ○読書環境を整備する ○ひとり、ペアやグループ、みんなでの学習活動を効果的に位置づける ○個人の能力を高めることを目的に行う

【まとめ】 5～10分

活動	ポイント
○ひとり、ペア・グループ、みんなでの振り返りを効果的に取り入れる	○学んだことやさらに学びたいことなどをまとめる

本時の学習過程の各段階について

1 単元の学習過程の確認

- ◆単元の学習計画表等を使い、本時が単元の学習のどの段階に当たるのかを確認しながら学習を進めることが、単元全体の見通しをもって学習を進めることにつながります。
- ◆児童生徒に今日の学習内容について説明させるなどの工夫をすると、いっそう主体的な学習を推進できるでしょう。
- ◆1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

2 本時の学習課題の設定

- ◆単元の学習課題解決に向けた本時の学習課題を設定します。
- ◆単元の学習課題と本時の学習課題の結びつきを児童生徒に理解させることが必要です。
- ◆場合によって違いますが、1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

3 既習内容や本時の学習内容の確認

- ◆学習課題の設定が終わったら、課題解決に向けて、すでに知っていること、知りたいことなどを確認する必要があります。
- ◆既習内容と結び付けて学習することが、学習内容の定着を図ったり発展させたりすることにつながります。
- ◆場合によって違いますが、1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

4 本時の学習過程の確認

- ◆「ひとりで」「ペアで・グループで」「みんなで」の学習形態の別、活動内容、活動時間等を確認しましょう。
- ◆黒板に書く、あるいは掲示するなどして一単位時間の学習の流れを児童生徒が視覚的につかむことができるようにしましょう。
- ◆1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

5 表現モデル・活動モデルの確認

- ◆表現モデルとは、本時の課題解決時の具体的な姿のことです。時間をかけないためには、詳しい解説をワークシートにして配付するなどの工夫が必要です。
- ◆活動モデルとは、本時の課題解決に向けた具体的な学習活動の姿のことです。時間をかけないためには、詳しい解説をワークシートにして配付するなどの工夫が必要です。児童生徒に模範演技をさせることも理解を助けます。
- ◆3～5分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。
- ◆児童生徒がすでに学んだ内容であれば、モデルを示さなかったり時間を短縮したりすることも考えられます。

6 個人での学習

- ◆一人で課題に沿って自分の考えをまとめる段階です。
- ◆一人で作業や思考、表現ができるように、知識を与えたり、理解を深めたり、技能を高めたり、思考操作や言語操作の仕方が分かったりすることのできる解説型シートや、自分で判断力し表現するための作業用シートを準備しましょう。
- ◆「一人で考えてください」と指示した時に、一人で思考や作業ができるように事前の指導や指示を明確に行いましょう。指導があつての活動です。
- ◆5～10分程度と、しっかり時間を確保しましょう。
- ◆課題や児童生徒の実態、指導構想によっては、最初からペアやグループで活動することも考えられます。

7 グループ・全体での学習

- ◆ペアやグループ、全体でそれぞれの考えを交流する段階です。
- ◆まず、教師が「どのような交流をどのようにさせようとしているのか」を明確にし、それを児童生徒に的確に指導する必要があります。
留意点には、以下のようなものが考えられます。
 - (1) 目的の確認…何のために何について交流するのか。
 - (2) 方向性の確認
 - ① 協議 (相互の知識や考え、意見などを出し合いひとつにまとめていく) か、討論 (互いの考えの違いを大事にしながら多くの考えを関連づけていく) か。
 - ② 交流後の発表について
 - ・結論と理由を述べる、出された主な意見を紹介する、話し合いの経過を説明する…等、交流後、どのように発表するのか。
 - ・全グループ発表なのか、代表グループが発表なのか。
 - ・口頭発表なのか、ボード等を書いたものの一斉掲示による発表なのか。
- ◆グループで交流させる場合には、次のように役割分担すると交流を充実させることができます。
 - (1) 司会者…交流の充実には、司会力の向上が不可欠です。学年に応じた司会力や「司会の進め方」の系統表を作成するなど、指導の充実が必要です。
 - (2) 記録者…交流が終了してから発表内容を検討する時になって、グループで相談してまとめて記録するものではありません。交流を進めながら発言の要点をまとめる力を育成しなければなりません。その際には、どのような形式の記録用紙にまとめさせるのかも重要です。
 - (3) 計時係…交流の時間や進度を管理する力(自ら時間をコントロールする力)。これまでの指導では十分とは言い切れない「時間内に話し合う力」を育成することも重要です。
 - (4) 発表者…交流後に報告する力。発表力(声の大きさ、視線、反応を見て話す、資料を示しながら話す、身振り手振りを入れて話す…等)を系統的に育成することも重要です。
- ◆「書くこと」における交流のためのグループは4名以内が適切です。ただし、「話すこと・聞くこと」の指導において意図的に4名以上での話し合いを組織することがありますので、その指導と区別しましょう。

8 個人でのまとめ

- ◆交流を終えて、本時の課題解決として考えを個人でまとめる段階です。
- ◆授業において交流をする最終的な目的は、児童生徒それぞれの能力や技能を高めたり、思考力・判断力・表現力を深めたり高めたりすることにあります。教師がまとめをして、それをノートに書き写させるような授業をしていたのでは、一人一人の能力や技能、思考力・判断力・表現力は向上しません。
- ◆必ず、各個人が自分の表現でまとめを行う段階を作りましょう。
- ◆この段階になって、改めて追指導しなくてもよいように各段階の指導を充実させ工夫することが最も重要です。

10 本時の振り返り

- ◆「何が分かり、何が分からなかったのか」「学んだことやさらに学びたいこと」についてまとめる段階です。
- ◆評価シートを活用して、学びの履歴が残るような工夫が必要です。このことが、自覚的・主体的な学習態度を養うことにつながります。学習計画と評価シートを一体化すると、見通しと振り返りが一枚のシートで可能となります。
- ◆評価シートを活用し、教師がコメントを記入したり、一人一人の学びを把握したりすることは評価の確かさにもつながります。

言語活動の充実に向けて、単位時間の中にグループ交流を効果的に位置付ける工夫が求められています。でも、「さあ交流しなさい」というように、具体的な指導をしないで交流させている場合も見受けられるので気を付けましょう。交流の仕方は、一度指導したからできるようになるというのではなく、小学校低学年から発達段階に応じて、指導を積み重ねていく必要があります。

しかも、中学校や高校では、国語科で指導する交流の仕方を他教科でも活用できるように指導していくことが、これからの大きな課題です。他教科の先生とも連携する必要があります。さらに、学習形態から学習過程を考えると、「少人数から多人数の学習へ」という一方通行的な学習形態の工夫になりがちですが、全体から個に向かうような学習形態や「個⇒全体⇒グループ」のような柔軟な展開を工夫することも、指導過程の硬直化を防ぎ、多種多様な言語活動の充実につながることを意識してください。



3-(5) 評価を工夫改善する

「読むこと」
編の再掲

Q1 学習評価の目的について教えてください？

A1 学習評価の目的には、大きく二つの側面があります。
一つは、教師の立場から、指導改善に生かすための側面であり、もう一つは、児童生徒の立場から、児童生徒や保護者に実現状況を伝えて学習改善を促すための側面です。

Q2 学習評価の改善に関する基本的な考え方について教えてください？

A2 学習評価の改善に関する基本的な考え方は三つあります。
一つ目は、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価（目標に準拠した評価）を引き続き着実に実施すること。
二つ目は、新学習指導要領の趣旨（学力観等）や改善事項（言語活動を通して指導する等）を適切に反映すること。三つ目は、学校や設置者の創意工夫を一層生かすことです。

Q3 目標に準拠した評価について、もう少し詳しく教えてください？

A3 目標に準拠した評価を実施するためには、教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルのねらいも明確にする必要があります。そのねらいに照らして、児童生徒の学習状況として実現された状態を具体的に評価規準として示さなければなりません。評価規準は、各学校において設定するものです。適切な評価規準の設定による着実な評価の実施が求められています。

Q4 各学校で学習評価を改善するための留意点にはどのようなものがありますか？

A4 まず、観点ごとの評価をバランスよく実施すること、学習評価をその後の学習指導や学校の教育活動全体の改善に結びつけることです。また、学習評価の妥当性や信頼性を高めるための組織的・計画的な取組も求められます。教師間の共通理解を図るため、校内研究・研修を工夫しましょう。さらに、保護者や児童生徒に、学習評価について事前に説明したり、評価結果の説明をしたりすることも重要です。実践事例を着実に継承していくことも重要です。

評価の進め方(手順)について

このガイドブックにおける
「授業づくりの手順」

「読むこと」
編の再掲

(3) 単元を構想

(4) 本時を構想

・ 授業実践

(5) 評価を工夫改善

□評価の進め方

単元で取り上げる指導事項と言語活動を確認する

単元の目標を設定する

単元の評価規準を設定する

単元の指導計画と評価計画を作成する

本時の指導計画と評価計画を作成する

指導に生かすための評価と記録に残すための評価を明確にする

記録に残すための評価を工夫する

- ・ ノート, ワークシート
- ・ 作品
- ・ 実演や映像
- ・ ペーパーテスト
- ・ レポート
- ・ 質問紙, 面接 等

□評価の留意点

- 年間指導計画を基に、重点的に取り上げる指導事項を確認する。☞「Ⅲ 資料編(p60)」へ
- 学習指導要領の目標と内容を踏まえる。
- 児童生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。
- 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にする。
- 上記で設定した単元の目標を踏まえる。
- ☞具体的作成例は、「Ⅲ 資料編(p61～62)」へ
- どんな評価資料を基に、どのような状況等の目安で評価するかを考える。
- 指導に生かすための評価を行い、学習指導の改善に生かす。
- 記録に残すための評価を行い、児童生徒や保護者に実現状況を伝え、児童生徒の学習改善に生かす。
- 記録に残すために、ノートやワークシート、作品や映像、ペーパーテスト等を用いて評価を行う。
- 自己評価や児童生徒同士の相互評価を工夫する。
- 観点ごとに評価を整理する。場合によって、観点ごとの総括的評価を記録する。
- 学期末や学年末の観点ごとの総括に生かす。

ノートやワークシートによる評価の工夫について

＜工夫1＞ 児童生徒の思考・判断・表現を見て取れるノートやワークシートを工夫する。

(1) 思考・判断の視覚化を図る。

- ・ 列挙, 順序づけ, 予想, 整理, 分類, 比較, 類推, 推論, 多面的思考, 統合, 関連付け, 選択, 論理的思考, 批判的思考, 評価など, 思考操作の別を記述させる。
- ・ 思考過程をナンバリング, マッピング, 表, フローチャート, KJ法などによって視覚化する。

(2) 自分の考えを表現させる。

- ・ 条件 (構成, 文数, 字数, 主語・述語・接続語等の指定, 使用語彙の指定など) を提示し, コンパクトに自分の考えを記述させる。
- ・ 本時の課題解決 (ゴール) として, 自分の考えをまとめさせる。

(3) 自分の考えの変容も記録に残させる。

- ・ 交流後に考えを再構成させる場合, 棒線や書き加え等で訂正や修正を行わせるか, 新たな考えを隣に記述させる。

(4) 板書事項を書き写すだけ, 情報を抜き書きするだけのノートやワークシートにならないよう工夫する。

＜工夫2＞ 児童生徒が自身の学習をメタ認知できるようなノートやワークシートを工夫する。

(1) 学習の見通しや振り返りを記述させる。

- ・ 学習に対する期待や学習計画・学習内容の見通し, 学習内容や学習過程の振り返りを記述させる。
- ・ 振り返りにおいては, 自身の考えの変容やその経緯なども記載させる。

(2) 学習についての自己評価や相互評価を記述させる。

具体例は, 「Ⅱ 実践編(p24)」へ



作品による評価の工夫について

＜工夫1＞ 作品における評価規準を設定する。

(1) 手立てとして次のようなことが考えられる。

- ・ 教師自身が作品をつくることで評価のポイントを明らかにする。
- ・ 単元の評価規準を, 明確化・焦点化・細分化・具体化し, 作品のどの部分で評価するのかを明らかにする。

(2) 留意点として次のようなことが考えられる。

- ・ 作品における評価規準を設定する際に, 評価の観点をバランスよく設定する。
- ・ 作品を比べて考えることで, 評価規準をより確かなものに修正していく。
- ・ 複数の評価者を工夫したり, 児童生徒の自己評価や相互評価を参考にしたりする。

＜工夫2＞ 場合によって, 「国語への関心・意欲・態度」や「言語に関する知識・理解・技能」(※高等学校では「知識・理解」)も評価する。

レポートによる評価の工夫について

＜工夫1＞ レポートを書かせる目的を明確にもつ。

- (1) 何を評価するためのレポートなのかを明確にする。
- (2) ペーパーテストや作品等でははかりきれない内容か確認する。

＜工夫2＞ レポートの様式や内容を指導する。

- (1) 評価規準に照らして, 何をどのように書かせるのかを明確にする。

ペーパーテストによる評価の工夫について

<工夫1> 評価規準（学習指導要領の目標や内容）を具体化した出題とする。

- (1) ペーパーテストは、指導によってどんな力が身に付いたのかを図るためのものであることを自覚する。指導した（学習した）内容を評価しなければならない。
- (2) 思考・判断・表現を伴う基本的出題例として、次のようなものが考えられる。出題例は、これまでに出题されることが少なかったのではないかと考えるものを象徴的に取り上げた。選択問題にしたり、記述問題でも条件を付したりすることで、採点基準を明確にする工夫が必要となる。

<出題例・小学校>

- ・このような自分の考えを伝えるときに、「なか」の順番をどのようにすればよいと思いますか。そのように考えた理由も書きなさい。（低学年イ）
- ・次の二文を、意味を変えずに一文に書き換えなさい。（低学年ウ）
- ・次の文章のまちがいを見付けて直しなさい。（低学年エ）
- ・次の文章を読んで、よいと思うところを見付けてその理由も書きなさい。（低学年オ）
- ・～という目的で文章を書くときに、必要な事柄は何ですか。次の中から適切なものを選びなさい。（中学年ア）
- ・この段落は、どの段落の次に書くことが適切ですか。（中学年イ）
- ・この意見に対するあなたの考えを理由や事例をあげて書きなさい。（中学年ウ）
- ・次の文章の文末表現のまちがいを見付けて直しなさい。（中学年エ）
- ・次の表現を書き直すとしたら、どのように書き直すことが考えられますか。その理由も書きなさい。（中学年オ）
- ・この文章において書き手の考えは明確に書かれていると思いますか。あなたの考えを書きなさい。（中学年カ）
- ・このような考えを書くとき、どのような事柄を収集する必要がありますか。その理由も書きなさい。（高学年ア）
- ・次のAの構成とBの構成では、どのような違いがありますか。（高学年イ）
- ・次の文章で、もっと詳しく書いた方がよい部分はどこですか。それはなぜですか。（高学年ウ）
- ・この文章において、自分の考えを伝えるときに、どのようなグラフがあるとよいですか。（高学年エ）
- ・次のA表現とB表現では、表現の効果としてどのような違いがありますか。（高学年オ）
- ・次の文章で、さらに良い表現の仕方を工夫するには、どのようにすればよいと思いますか。（高学年カ）

<工夫2>

具体的言語活動の設定を意識した出題とする。

- (1) 「いわてスタンダード」「Gアップシート」の考え方を参考にする。
 - ・平成25年3月に総合教育センターが、中学校国語・数学・英語の3教科で作成した評価規準表とその評価問題。
- (2) 全国学力・学習状況調査問題から授業を改善する。

質問紙、面接による評価の工夫について

<工夫1> 学習意欲や児童生徒の学習内容に関する変容を把握する。

- (1) 国語への関心・意欲・態度に反映させる。
- (2) 質問紙と、作品やペーパーテストなどを組み合わせて判断するようにする。

<工夫2> 質問紙やペーパーテスト、作品などでは把握しきれない内容について、面接によって把握する。

このページは空白です

Ⅱ 実践編

第6学年単元構想表（光村図書；「随筆を書こう」）

※平成26年12月に実践した授業

【児童の実態】

【身に付けさせたい力】

<p>○6年生「ようこそ、わたしたちの町へ」の学習では、相手や目的に応じて書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができた。また、よさを表すのにふさわしい語句を使いながら表現を工夫しようという様子も見られた。</p> <p>○6年生「この絵、わたしはこう見る」の学習では、絵画から読み取ったことや感じたことを事実と感想、意見などを区別し、表現技法を工夫しながら鑑賞文を書く活動を行った。</p> <p>○文章を書くときには、構成に気を付けたり、表現を工夫したりするということを意識できるようになってきている。しかし、書くことについては個人差があり、伝えたいと思う事物を明確にできなかったり、事実に対する感想や意見をもてなかったりする児童もいる。</p>	<p>○考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する力（B-ア）</p> <p>○事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする力（B-ウ）</p>
---	--

【単元を貫く言語活動】

経験したこと、想像したことなどを基に、随筆を書く。

【言語活動の特徴】

小学校生活をふり返り、経験したことや、見たり聞いたりしたことの中から、忘れられないような印象深いことについて随筆にまとめる。

随筆は、「書きだし」「体験（事実）」「体験の感想や思い、意味づけ（感想、意見）」の構成とし、800字から1,000字でまとめることとする。

書いたものは、「卒業アルバム」に掲載する。

1. 単元名 小学校生活をふりかえり、印象深いことを読み手に分かるように整理しながら随筆に書こう

2. 単元の目標 小学校生活をふり返り、経験や見聞した事実について、読み手に分かるように描写したり、それに対する自分の考えを整理したりしながら随筆を書くことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心、意欲、態度】

☆随筆という文章様式を知り、自分らしさの表れた随筆を書こうとしている。

【書く能力】

☆自分の身近に起こったことや見たこと聞いたことの中から、随筆に書きたい事柄を選んでいる。（B-ア）

☆自分の考えの根拠となる出来事について、概説したり特定の場面を詳しく描写したりして他の人にも分かるように書いている。（B-ウ）

【言語についての知識・理解・技能】

☆文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。（言イ（キ））

4. 教材 「自分を見つめ直して」（光村図書：6年）

5. 単元の展開（全9時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・書・言）等
第0次		○随筆作品の読み聞かせを聞く。 ○さまざまな随筆を読む。	
第1次	第1時	1. 学習課題を設定する。 ○作文と随筆（モデル）の比較によって、随筆の特徴を大まかにとらえる。 ○随筆を書く目的（卒業文集）をつかむ。 2. 単元の学習計画を立てる。	関 随筆を書くにはどうすればよいか考えようとしている。 言 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。 ○構成や表現の工夫のあるモデルを示す。
第2次	第2・3時	1. 書く題材を決める。 ○書きたい体験や見聞を決める。 ・個人で考える⇒グループで交流する ⇒全体で交流する⇒個人で再検討する 2. 書く材料を集める。（個人で） ○題材が自分にとってどのような意味があったのか考える。 ○題材についての詳しい様子や、感じたこと、考えたことを思い出し、メモに書き出す。	書 自分の身近に起こったことや見たこと聞いたことの中から、随筆に書きたいことを選んでいる。 ○行事や体験、これまでに書き留めた文章や日記、写真、教科書の語群を見て自分の生活を振り返らせ、題材を決める手がかりにさせる。
	第4時	1. モデルの構成や表現を分析する。 ○構成や文末表現、表現技法、書き出しの工夫などを詳細に分析する。（全体で） 2. 集めた材料から構成メモをつくる。 ○必要な材料を選び、書く順番を考える。 ・個人で考える⇒グループで交流する ⇒全体で交流する⇒個人で再検討する	書 自分の身近に起こったことや見たこと聞いたことの中から、随筆に書きたいことを選んでいる。
	第5・6時	1. 構成メモを基に記述する。 ○構成や表現、書き出しを工夫して随筆を書く。 ○下書きを完成させる。 ・1回目の原稿が出来上がった児童には、推敲させながら2回目を書かせる。	書 自分の考えの根拠となる出来事について、概説したり特定の場面を詳しく描写したりして他の人にも分かるように書いている。 ○原稿用紙の上段に構成、書き出し、表現技法などを示しておく。 ○最初は分量的に多めに書かせる。
	第7時	1. 推敲する。 ○下書きを読み合い、アドバイスし合う。 ・グループで推敲しあう。 ・全体で優れた叙述を紹介し合う。 ○グループや全体の交流をもとに下書きを個人で推敲する。	書 自分の考えの根拠となる出来事について、概説したり特定の場面を詳しく描写したりして他の人にも分かるように書いている。 ○推敲の観点を示し、観点に沿って、アドバイスし合うようにさせる。 ○良さも見付けさせる。
	第8時	1. 清書する。 ○卒業アルバムに掲載することを意識して清書する。	書 自分の考えの根拠となる出来事について、概説したり特定の場面を詳しく描写したりして他の人にも分かるように書いている。
第3次	第9時	1. 交流する。 ○内容、表現の工夫について感想を交流する。 ・グループで交流する。 ・全体で交流する。 2. 単元の学習を振り返る。 ○成果や課題について振り返る。	関 自分との共通点や相違点を見つけたり、表現の工夫を見つけたりしながら友達の随筆の良さを読もうとしている。
第4次		完成した卒業アルバムを読み合ったり、家族に読んでもらい感想をもらったりする。	

【第2時 書く題材を決め、意味づけを考える】

12月3日(水) 名前

① 題材を決める。

小学校生活を振り返り、忘れられないような印象深いできごとから題材を決めよう。
それが自分にとってどのような意味をもつか考えよう。

○思い出す手がかりにしよう。

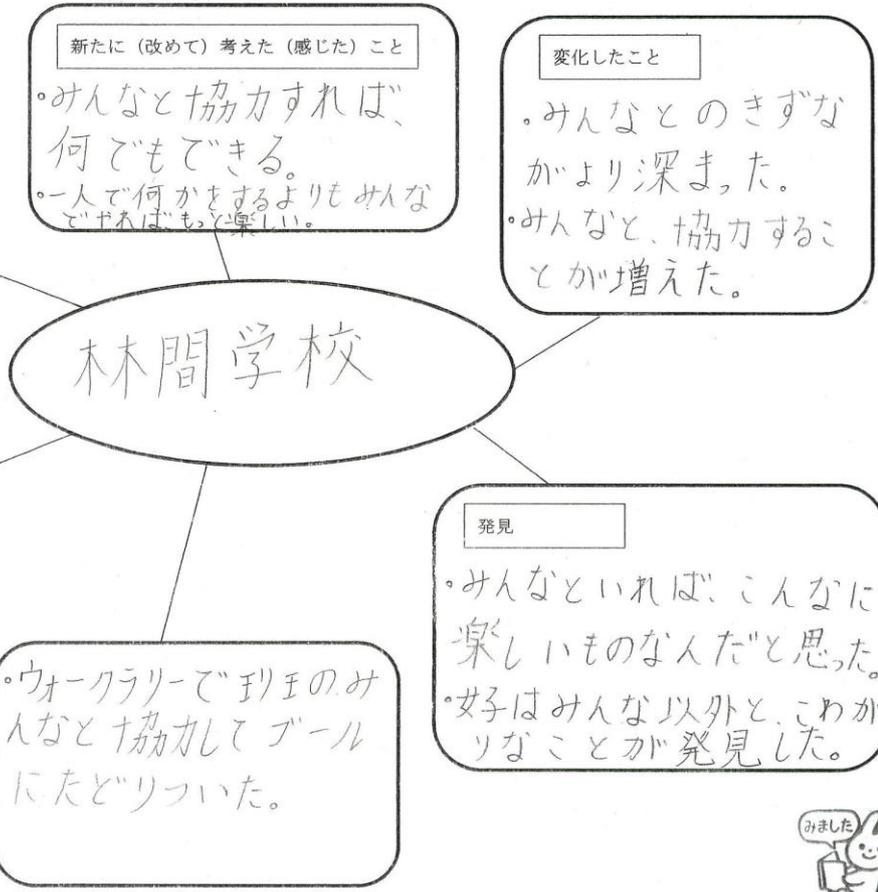
○どんなことがあったかな。思い出に残っていることを書いて。
・林間学校。陸上記録会。運動会。修学旅行。お楽しみ会。学習発表会。
・去年の六送会。水泳記録会。縦割り班遠足。お花見給食。給食長。なまじり集会。
・体芸月。自衛隊見学。Vフトボール大会

言葉	中華料理	星座	畑	バス	サッカー	反発
漢字	回転ずし	満月	ふかしいも	バス停	ソフトボール	達成
文字	マット運動	三日月	どうもろこし	駅	とび箱	反省
物語	ドッジボール	太陽	食欲	お墓参り	ピアノカ	一点
文章問題	クラス対抗戦	宇宙	くり拾い	おばあさん	オルガン	失敗
分数	遠足	夕立	短歌	おばあさん	ピアノ	喜び
小数	雨	水害	俳句	クラスがえ	卒業式	悲しみ
割合	弁当	断水	雷合戦	別れ	パソコン	うれしがいい
割合	弁当	断水	雷合戦	別れ	パソコン	うれしがいい
割り算	白組	雨具	こたつ	仲直り	テレビ番組	メール
ローマ字	音楽会	かに	節句	将来	映画	大みそか
校長室	指揮	海水浴	観葉植物	現実	映画	大みそか
理科室	合唱曲	水泳	植木	未来	映画	大みそか
人体模型	校歌	すいか	ねこ	夢	妹	お年玉
薬品	学校の七不思議	砂浜	犬	希望	弟	警察官
料理	非常階段	淨き輪	ペットシヨップ	大人	兄弟げんか	夜勤
和食	運動くつ	ブルー	うさぎ	先生	一輪車	仕事
外食	七夕	こわい話	小鳥	クラブ活動	練習	残業
インド料理	望遠鏡	田んぼ	散歩	交流試合	特訓	

林間学校



② 自分にとってどのような意味をもつか考える。 ※他にも自分で書き加えよう。



努力することの大切さ

「これから課外水泳を始めます。」

キャプテンの声が体育館にひびいた。四、五、六年生全員での放課後の水泳練習が始まった。課外水泳のメニューは、流し二百メートル、キック五十メートルを六本、プル五十メートルを六本、二十五メートルダッシュ二十五mを五本、五十mを三本、ダウン百メートルである。全部で千メートル以上泳ぐことになる。

この練習を通して、みんなの記録が伸び、そして喜んでる姿を見たいと思った。

練習が始まると、みんな真剣だった。

キック。前の人と間をあげながらスタートしていった。

「バタ足のカだけで五十メートル泳ぎ切ります。とちゆうで立ちません。」

そうは言ったものの、「きつ」とちゆうで立ち上がってしまう子がいるだろう。」と、心の中であらう。息が苦しくなり、足もつかれてくる。しかし、だれも立たなかつた。ゴーグルをつけていて表情がはつきりとは分からないが、必死なことが伝わってきた。もう少しで五十メートル。かべにタッチ。すぐにターン。あつという間に次の五十メートルへと泳いでいった。五十メートル泳いだら声をかけようと思っていたが、声をかける一瞬のすきもなかつた。もちろん五十メートルで立つ子もいた。かべにタッチし、水の中から顔を出した瞬間、まるでそこにある酸素すべてを吸おうかというように、肩を上下にゆらしながら息をしていた。かべにタッチするまで苦しくても「あとちよつと、あとちよつと。」と、がんばってきたにちがいない。

太陽の日差しが強く水に入るのが楽しい日ではなかつた。水が冷たい日もあつた。どんな日であつても、みんな一生けん命だった。それはいつも変わらなかつた。

夏の終わりが近づき、水泳の学習が終わりになつた。子ども達の記録は、どの子も大きく縮まつた。五十メートル泳げなかつた子が軽々と泳げるようにもなつた。すべて努力の積み上げの成果だと思ふ。努力することの大切さは分かっているつもりだったが、改めて努力することの大切さを教えてもらったように思ふ。また、必死にがんばる姿、記録を見て喜ぶ姿をそばで見ることができた。こんなうれしいことはない。

【第7時 推敲の進め方、グループ学習の進め方（推敲）】

書いた随筆を読み合い、アドバイスし合つて、よりよいものにしてしよう。

月 日 () 名前

① 友達の下書きを推ごうの視点に沿つて読み、アドバイスを付せんに書く。

黄色…よいところ(まねしたいところ)
黄緑…よりよいものにするには

どちらでも二つ以上かけるといいね。

《推ごうの視点》

- ◎ 読み手を引きつける書きだしになっていますか。
- ◎ 表現を工夫して分かりやすく書かれていますか。(具体的に様子が目に浮かぶかな?)
- ◎ 出来事の一場面が詳しく書かれていますか。
- ◎ 出来事と意味づけにつながりがありますか。

- 表記について
 - ・誤字、脱字
 - ・「」の使い方
 - ・漢字
 - ・句読点。「」
 - ・常体
 - ・八百字、千字程度
- 《詳しく》
 - ・聞こえた音
 - ・会話
 - ・見たものの様子(大きさ、色、形、長さ、太さなど)
 - ・動き
 - ・風景
 - ・心のつやき
 - ・気付いたこと
 - ・想像したこと

- 《書きたし》
 - 考えたことから
 - 詳しい情景描写から(事実から)
 - 会話(声・音)から
 - 語りかけから
 - 問いから
- 《表現技法》
 - 体言止め
 - 比喩(まるで、のような)
 - 擬態語、擬声語(どかつと、ゴロゴロ)
 - 短い文
 - 繰り返し(高く、高く高く飛び上がった)

- 《終わりの文末表現》
 - ーを学んだ。
 - ーと思った。
 - ーを生かしたい。
 - きつと、ーにちがいない。
 - ーを忘れたくない。
 - ーのような気がする。など

- ② グループで話し合う。
- ③ 全体で友達のよいところを紹介し合う。
- ④ 交流をもとに個人で推ごうし、下書きに直接書き込む。(赤ペンで)
- ⑤ ふり返り。

達成の喜び

「あと三つ目の駅で降りるよ。」
班長の声だ。修学旅行の二日目、ぼくたちは班で仙台市科学館に行くために地下鉄に乗り、旭ヶ丘駅を目指していた。

他の班の人たちとも同じ電車だ。電車は、よく上下にゆれていて、電車内には、ゴトゴトという音がひびいていた。地下鉄だから、周りを見回しても外はかなり暗く、光はまったく入ってこなかった。夜中の終電に乗っているような気持ちだ。

不安。初めは、先生なしで、みんなだけで科学館に行けるのだろうかという心配をしたり、みんなだけで地下鉄に乗るのは不安だなあと思ったりもしていた。ぼくは、何度か地下鉄に乗った事があるが、乗った事があるといつても大人といつても、その時だから、そんなに自信もつかなかった。その時は、大人にたより「ばなしで、自分では何もしていなかったからだ。でも、その日は不安という気持ちの中に、少しの楽しさがあった。初めはあんなに心配していたのに、なぜ今はこんなに楽しいのだろうか、自分でも分からないくらい楽し

いつまでも忘れられない思い出

「きゃあ。」

「わあ。」

みんながいっせいにさりんだ。女子の部屋では、こわい話で盛り上がりかっていた。最初は、みんなちやんと自分のベッドに入っていた。こわい話でこんなに盛り上がると思っていなかったから、私は楽しくなって電気を暗くした。そうすると、みんながもっとさわいだ。クサ暗い中私がこわい話をまた再開すると、身をふさいで「きゃあ」とさりんだ。みんなかさわぐわり、私もこわくな。こわい話をしている自分がみんなよりもこわかっていた気がする。でも、私よりこわかっていたのは月望愛ちゃんだ。月望愛ちゃんは、すごくこわかっていた。だから、

「カーテンの後にだれか立ってるよ。」

と、わざと言った。予想通り目を大きく見開いてものすごくこわかっていた。大成功だ。

とちゅうからは、私と月望愛ちゃんのこわい話をしている司会者のまねが始まった。

みんなで、

「そろそろねようかし。」

かった。この時ばかりは、みんなといっしょだ、いつもやっている事でもいつもより楽しく、成功した時の達成感もみんなと分け合えるからみんなといっしょだと喜びは大きいのだと思ふことができた。だから大人はいろいろな事をするとき、

「みんながや」た方が楽しい。」

というのだと分かった。

その後、旭ヶ丘駅で降り、無事に仙台市科学館に着くことができた。科学館では、班の人たちと「エイムズの部屋」という部屋の他に、シヤボン玉の中に入る事ができた。二階には、鉱物の原石や、モグラヤトビ等の標本が置いてあった。

この体験を通してぼくは、みんながいっしょに何かをするのは、いつもより楽しいと改めて感じる事ができた。また、今まではみんながやっても何もいい事は無いと思っていたが、この体験で、みんなが何かをする、成功した時の喜びも大きいのだということを知った。



と、言ってまたベッドに入った。ところかベッドで横になっても笑いが止まらない。何もおもしろくないのになぜか笑いが止まらない。だから、またこわい話を始め、結局ねられなくなり、一つのベッドに二人がねることになった。私は芽生ちゃんにベッドでねた。みんなつかれていたため、すぐにねむってしまった。

朝一番早く起きたのは、芽生ちゃん、その次に私が起きた。私はもともとねぞうが悪いから、

「私、ねぞう悪ったでしょ？」

と聞いた。そうしたら芽生ちゃんは、

「ずごくピンヤとしていて、ごぼうのようだったよ。」

と言って笑っていた。佳音ちゃんは、いたってふつうのね方だったが、月望愛ちゃんはすごかった。だんごムシのように丸くなり、佳音ちゃんの足の下でねむっていたのだ。おもしろくて、なめたか出そうだった。

林間学校から帰ってきて、強く思ったことがある。それは、みんなといればこんなに楽しいものなんだなと。私は、林間学校に行つて、本当にいい経験をした。そして、四人とのまじりかより一層深まった。

第8時 完成した随筆 達成の喜び 忘れられない思い出

中学校第3学年単元構想（三省堂；「主張文を書こう」）

※平成26年12月に実践した授業

【子どもの実態】

【身に付けさせたい力】

<ul style="list-style-type: none">・生徒はこれまでに書く活動として「感想文」「説明文」「批評文」を書いてきた。事実と意見を書き分けたり、具体例を効果的に用いて説明したりすることなどを学習してきた。・普通の授業でも、根拠を明確にして自分の考えを書く活動に取り組んでいるが、考えと根拠の整合性に欠ける生徒も見受けられる。・自分が書いた文章を推敲する時には、誤字脱字の修正程度で終わってしまいがちであった。	<ul style="list-style-type: none">◎社会生活の中から課題を決め、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書く力。（B-ア，イ）○書いた文章を読み返し、文章全体を整える力。（B-ウ）
---	---

【単元を貫く言語活動】

身のまわりや社会を見つめ、気づいたことや考えたことを主張文にする。

【言語活動の特徴】

この単元における主張文のとらえ＝単なる自分の考えを述べるにとどまらず、相手を説得できる文章、実感を伴って共感できるような文章を書くこと。

目的＝岩手県民に主張したいことという観点で、新聞記事などから話題を選び、それに対する自分の考えを1,000字以内の文章にまとめる。書き上げた主張文は学級で読み合い、優れているものを新聞に投稿する。

取材には時間がかかることが予想されるので、単元の学習に入る前から関心のある事柄を見つけ、新聞をスクラップさせておきたい。説得力のある論理の展開の仕方については、モデルを基に考えさせたい。推敲については、第三者の視点で自分の原稿を見直すことができない実態にあるので、この単元では、友達の原稿を読者の視点で読み、分かりにくかったりもっと知りたかったりする点を推敲しあう活動を経験させ、自分で自分の文章を推敲する力につなげたい。

1. 単元名 県民に届けよう～今伝えたい私たちの声～

2. 単元の目標

○新聞記事などから話題を選び、それに対する自分の考えを説得力のある文章として書くことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆社会生活の中から課題を決め、説得力のある文章を書こうとしている。

【書く能力】

☆社会生活の中から課題を決め、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書くことができる。（B-ア，イ）

☆書いた文章を読み返し、文章全体を整えることができる。（B-ウ）

【言語についての知識・理解・技能】

☆文章を、学年別漢字配当表に示されている漢字を使って書くことができる。（伝国ウ(イ)）

4. 教材 「主張文を書こう」（三省堂）

5. 単元の展開（全7時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・書・言）等
第0次		○自分が興味のある事柄について、新聞記事をスクラップする。	
第1次	第1時	1. これまでの「書くこと」の学習を振り返る。（全体） 2. 学習課題を設定する。（全体） 3. 実際に投書された文章（モデル）を読み，単元のゴールをイメージする。（全体） 4. 学習計画を立てる。（個人⇒グループ⇒全体） ・「取材・構成・記述・推敲・交流」の学習過程をもとに考える。	関 これまでの学習を振り返り，今後の学習の見通しをもととしている。
第2次	第2時	1. 個人課題を選択する。（個人） 2. 個人課題について取材する。（個人） ・これまでの新聞記事のスクラップ ・インターネットの検索 3. 取材した内容について交流する。（グループ⇒全体） 4. 取材内容について見直す。（個人）	書 社会生活の中から課題を決めることができる。 書 主張文を書くために必要な情報を集めることができる。
	第3時	1. モデルの構成や表現を分析する。 ・文章の構成要素 2. 構成を考える。 ・個人で考える。 ・グループで交流する。	書 モデルの構成を分析し，説得力のある文章の構成を理解することができる。 書 自分の主張を，説得力をもって伝えるために効果的な構成を選択し主張文を書くことができる。
	第4時	3. 構成を考えて記述する。（個人）	
	第5時	1. 書いた文章を推敲する。（グループ⇒全体） ・グループで読み合い，推敲し合う。 ・読者として推敲する。 ・推敲の視点（誤字脱字，構成，説得力，人を傷つける表現や誤解を招く表現がないか）	書 互いに書いた文章を推敲し合い，より良い表現について考えることができる。
	第6時	1. 清書する。（個人） ・グループの推敲を参考にしながら清書する。	書 推敲を参考にしながら説得力のある主張文を書くことができる。
第3次	第7時	1. 書いた文章を読み，評価しあう。（グループ⇒全体） ・展開の仕方や表現の仕方 ・自分の表現に役立てたい ・友達の主張から考えたこと 2. 単元の学習の振り返り。（個人⇒全体）	書 書いた文章を互いに読み合い，論理の展開の仕方や表現の仕方について評価して，ものの見方や考え方を深めることができる。
第4次		○岩手日報に投稿する。	

【第1時 学習計画を立てる】

三年国語ワークシート『県民に届けよう〜今伝えたい私たちの声〜』 1
氏名「」

本時の課題 単元の学習の見通しをもとう。

本時の流れ

- 一 これまでの「書へ」活動をふり返る
- 二 単元の学習課題を設定する
- 三 モデル文を読み単元のゴールをイメージする
- 四 学習計画を立てる
- 五 本時のふり返り(単元学習シート)

1 これまでに自分が書いたことがある文種「はどのようなものがあるだろうか。」

感想文 鑑賞文 日記 随筆 物語 説明文 論説 批評文

記録文 意見・主張文 解説文 手紙文 紀行文 詩 短歌 俳句

2 説得力のある主張文を書くために大事なことは

↓ 単元学習シートに記入

- ・ 双括型・頭括型・尾括型
- ・ 具体例・読者(相手)
- ・ 根拠を明確に。身体
- ・ 経験・体験・知識・題材

3 学習計画を考えよう

主張文を書くためにどのような手立て・段階(活動)が必要か

<p>主張する話題を考える。</p> <p>何と関連するかも含む)</p> <p>詳しく関連するものを知る。</p> <p>文章の構成を考える。</p> <p>下書き</p> <p>推敲</p> <p>清書</p>	<p>材料を集める。(取材)</p> <p>題材：…主題を決める。</p> <p>追取材</p> <p>構成を考える。</p> <p>下書き</p> <p>推敲</p> <p>清書</p>
---	--

【第2時 追取材する (事前に新聞スクラップしていたものにプラスして、インターネットで事実を集める)】

三年国語ワークシート『県民に届けよう〜今伝えたい私たちの声〜』 2
氏名「」

本時の課題 個人課題を設定しよう。

本時の流れ

- 一 新聞スクラップをふり返り個人課題(主張する題材)を考える
- 二 インターネットで題材について追取材をする
- 三 取材した内容について交流する
- 四 取材した内容を見直す
- 五 本時のふり返り(単元学習シート)

1 新聞スクラップを振り返り、主張文を書く個人課題(題材)の候補を整理する

↓ 単元学習シート

2. インターネットで題材について追取材をする

※主張文を書くために記事・出来事についてさらに知りたいことは、

- ・ 昭和ニホニホ明治・江戸
- ・ クール・ジャパン ミニハイカルチャー(芸術)に留まてない
- ・ 断片的・部分的にしか知られていない。
- ・ 平成19年大英博物館の美伝統工芸の50年展「高い評価
- ・ ミニシアター(映画・マンガ・アニメ・ゲーム)ミニシアター芸術祭の相模拡大
- ・ 文化庁「日本の芸術の情報収集集 日本人自身分理解
- ・ 伝流文化と現在文化

3 取材した内容について交流しよう

※友達からのアドバイス

↓

4 取材を見直す

個人課題(題材)

どのような記事・出来事から?

どんなことを主張する?

具体的な文化 年号

和紙 無形文化遺産

日本の文化発信

【第3時 モデルを分析する】

モデルD 頭括型	モデルC 双括型	モデルB 尾括型	モデルA 尾括型	例	型
<p>最後の 終わらせ</p> <p>筆者の主張・事実 ←筆者の経験 ←事実 ←具体例 意見</p>	<p>筆者の主張 ←現状 ←筆者の考え ←具体例 事実、意見</p>	<p>筆者の主張 ←現状・反論 ←筆者の考え ←事実(筆者の経験) 話題</p>	<p>筆者の主張 ←現状 ←筆者の考え ←現状・具体例(ニュースなど) 話題・問題提起 ←事実(筆者の経験)</p>	<p>大まかな構成</p>	<p>工夫点</p>
○会話文	○専門的な話題だが、読者を意識した分かりやすい文章になっている	○接続語が多く使われていて流れがつかみやすい ○スマホを持つ若者連の欠点はよく聞かぬが、利点はあまり聞かないので新鮮	○文章の書き出しを問いかけにし、読み手に関心をもたせている。 ○自分の体験だけではなく、一般的なこと(現状・ニュース)を用いることで説得力が増している。 ○「和食が世界の無形文化遺産に登録」された↓美しい着づかい		

三年国語ワークシート『県民に届けよう！今伝えたい私たちの声』 3 氏名「」

本時の課題 モデルを分析し、主張文の構成を考え、主張文を書き出す。(2時間)

本時の流れ

- モデルの分析
- モデル文はどのような構成となっているだろうか
- ※読者に主張を強く訴えるためにどのような工夫がなされているだろうか
- モデル文を分析し、主張文の構成を考え、主張文を書き出す。(2時間)
- モデル文を分析し、交流する
- 主張文の構成を考える
- 主張文を書く
- 本時の振り返り(単元学習シート)

【第4時 構成を考える】

結論	本論	序論	大まかな構成	大まかな内容
<p>主張</p> <p>考え</p>	<p>具体例</p> <p>現状</p> <p>事実</p>	<p>現状</p> <p>事実</p>	<p>話題提起</p>	<p>人の死について考えたことあるか また、死についての法があること知っているか メイブードさんが安楽死したこと 最近では自分の意思と表示することができない 自分に対して家族に対して 話し合いがない</p>
<p>この死に対しての考え方に差はあっているか 考え方を統一するよりも もと死について考え 理解したり 家族の中でよく話し合うことが必要</p>	<p>安楽死を認めている国や州 国・世界でたくさん意見がある 理解が不十分、誤解している人多い 安楽死の種類 脳死があること 各国ごとの考え方の違い ↑日本も</p>	<p>尊厳死と安楽死の違い 安楽死の種類 脳死があること 各国ごとの考え方の違い ↑日本も 理解が不十分、誤解している人多い 安楽死を認めている国や州 国・世界でたくさん意見がある</p>		

2、構成を考える(構成メモ)

3、構成メモを参考に主張文を書こう。↓原稿用紙

※一行目に題名

※二行目に学校名・学年・氏名

※三行目から書きだすこと。(字数は九八〇字〜一〇〇〇字)

【単元で使用した単元学習シート（ワンペーパー・ポートフォリオ）】

平成26年度 第3学年 国語 単元学習シート 3年 A組 45番

氏名

県民に届けよう

～今伝えたい私たちの声～



平成26年度 第3学年 国語 単元学習シート 3年 A組 45番

氏名

県民に届けよう

～今伝えたい私たちの声～



○これまでの国語の学習をふり返し、説得力のある主張文を書くために大事なことはどのようなことですか。

- ・主張、事実、根拠をけりこみ、自分の経験を入れる。
- ・具体例を用いる。
- ・問いかけなどを入れて、聞き手の興味をひく。

○自分が県民に主張したい話題の候補

- ・和紙 ↓ 文化の発信
- ・ロケット爆発 ↓ 宇宙開発
- ・オレゴン州の女性、尊厳死 ↓ 生きることの選択
- ・フナガリと感謝パティ ↓ 県の復興について

○この単元の学習をふり返し、説得力のある主張文を書くために大事なことはどのようなことですか。

自分の意見を「自分の主張するのではなく、違う視点からの意見も取り入れて」それに対する「事実も考えを」書くことで説得力があるようになる。また、具体例や裏付ける根拠があることがよい。事実に対する「自分の考えを主張に近づけられる」こと、良いこと。

○この単元で学習したことを今後の生活のどのような場面で生かしていきたいですか。

話し合いの際に、自分の意見、意見を主張するにあたって他の立場の主張を受け入れつつ、自分の根拠を事実に基づいて主張する。

氏名

県民に届けよう

～今伝えたい私たちの声～



○これまでの国語の学習をふり返り、説得力のある主張文を書くために大事なことはどのようなことですか。

○自分が県民に主張したい話題の候補

- 和紙 ↓ 文化の発信
- ロケット爆発 ↓ 宇宙開発
- オレゴン州の女性 尊厳死
- ↓ 生きる 選択
- アマガリに感謝 パリ
- ↓ 県の復興について

○ 主張 事実 根拠をばきりさせる

○ 自分の経験を交える。

○ 具体例を用いる。

○ 問いかけなどを入れて聞き手の興味をひく。

12月 10日	12月 8日	12月 3日	12月 2日	12月 1日	11月 19日	11月 18日
読み合い	着書	推敲	下書き	文章構成	個人課題設定	単元の見通し
説得力のある主張文を書くために必要なこと 結論は断定の形で言い切る。 考えは客観的にとらえるが、 否定 ↓ 肯定で事実に対する 結論は断定の形で言い切る。	説得力のある主張文を書くために必要なこと 「文未の工夫」 「ことばの選び方」 「ことばの並び」 「ことばのつながり」 「ことばの繰り返し」 「ことばの言い換え」 「ことばの言い方」 「ことばの言い場所」 「ことばの言いタイミング」 「ことばの言い相手」 「ことばの言い道具」 「ことばの言い状況」 「ことばの言い態度」 「ことばの言い声調」 「ことばの言い表情」 「ことばの言い動作」 「ことばの言い姿勢」 「ことばの言い服装」 「ことばの言い道具」 「ことばの言い状況」 「ことばの言い態度」 「ことばの言い声調」 「ことばの言い表情」 「ことばの言い動作」 「ことばの言い姿勢」 「ことばの言い服装」	説得力のある主張文を書くために必要なこと 肯定 ↓ 否定	説得力のある主張文を書くために必要なこと 接続詞を用いる。 序論・本論・結論を はきりさせる。	説得力のある主張文を書くために必要なこと 主張をばきりさせる それに対する根拠(事実・ 例)を明確にする	説得力のある主張文を書くために必要なこと 客観的に事実をとらえる。 主張を裏付ける根拠(具体 的事象)を含める。	説得力のある主張文を書くために必要なこと 例)を明確に示すこと。
本時をふり返って 質の高い主張文を読み合せて主 張文に大切なのは主張を裏かける 根拠にと思った。	本時をふり返って 前回は推敲した文を清書した。自分 の主張が根拠となる事実と根拠に明 白な文章になったと思う。	本時をふり返って 多くの視点から文章を見ること で内容や語句の間違いを見つけた ことができた。	本時をふり返って 事例を主張や考えに関連させた り、例えを結論に活かしたりするの が難しかった。	本時をふり返って 今日は3つの主張文から構成の仕 方も学ぶべき工夫点を通してより説 得力のある意見文の書き方を考え ることができた。	本時をふり返って より詳しく調べていきたい。	本時をふり返って 今日は学習計画を考えた。着書に 至るまで、自分の主張文を見つめ、他の 主張文からたくさんのお話をうかが いたい。

東日本大震災から3年と9カ月。長いようにも短いようにも感じる。被災地の方々と全国の人々はこれをどのように感じているのだろうか。

今の復興状況はどうだろう。震災直後に、ある道路がとても早いペースで修復され、海外から高い評価を得た。三陸鉄道の復旧など、とても喜ばしいこともあった。しかし現状として、福島原発の問題、なかなか進まない産業回復、仮設住宅に住むたくさん

日 報 論 壇

の人々。さまざまな問題を抱えている状態だ。

私はもっと国全体が本気になって被災地のことを考えてもらいたい。もちろん、復旧に不満を感じる人も全国各地の企業や地

震災復興へ一っになるろう

高 橋 若 菜

の企業や地が多数いることも事実だ。

また、メディアでは「被災者は前向きに頑張っている」とよく報れる。私は被災者のひたむきな美しい姿だけでなく、悲しみ、苦しみを、

「前向きに頑張っている」と自分自身に言い聞かせているのかも。この3年9カ月、日本で、世界で、さまざまに私たちが精いっぱい復興を盛り上げていきたいと思う。

盛岡市 中学生 15 歳

最近の日本で、新たな社会問題としてマタニティーハラスメント(マタハラ)が話題となっている。そのきっかけとなったのが10月23日の最高裁判決だ。最高裁は、妊娠による降格は原則禁止で、女性が自由意思で同意しているか、業務上の必要性など特殊事情がなければ違法で無効とする初判断を示した。

マタハラとは妊娠、出産した女性に対する職場での嫌がらせである。

日 報 論 壇

なぜこんなにも被害の規模が大きい問題であるにもかかわらず、世間での認知度が低い

マタハラに向き合おう

井 上 唯 真

あるという意識調査もある。

なせこんなにも被害の規模が大きい問題であるにもかかわらず、世間での認知度が低い

マタハラとは妊娠、出産した女性に対する職場での嫌がらせである。

「前向きに頑張っている」と自分自身に言い聞かせているのかも。この3年9カ月、日本で、世界で、さまざまに私たちが精いっぱい復興を盛り上げていきたいと思う。

盛岡市 中学生 15 歳

※この記事は、岩手日報社の許諾を得て転載しています。

東日本大震災から4年がたとうとしてい

なかつた地域の小中学生は考えていることがあるだろうか。風化して

私に住む盛岡や津波が

日 報 論 壇

やりの意識が薄れている。震災復興のために今の自分たちの意識を変えないだろうか。

復興へ思いやりを大切に

畠山 桜子

私たちには家に帰れば暖かい部屋があり、隣の人の声が聞こえるわけでもなく、自由な暮らしができています。だが、とあらためて感じました。岩手県民として一刻も早くも

政府の「新エネルギー基本計画」は、東日本大震災での東京電力福島第1原発事故を踏まえ、原発依存度を可能な限り低減するとしつ

日 報 論 壇

電気が通う。しかし、もう一度原発について考えてみる。未来に残

電気に頼る生活変えよう

小 岩 あ い

電気が通う。しかし、もう一度原発について考えてみる。未来に残

※この記事は、岩手日報社の許諾を得て転載しています。

高校第1学年単元構想 (大修館/国語総合 ; 「表現の窓4 手紙を書こう」)

※平成26年12月に実践した授業

【子どもの実態】

【身に付けさせたい力】

<ul style="list-style-type: none">・語彙が足りず、表現力が乏しいため文章を書く力が弱い。そのため、「書くこと」に抵抗がある。・授業の中で、感想文や意見文を書く活動はしてきたが、「相手」や「目的」を意識することはなかった。・形式が決まっていると考えやすいよう積極的に取り組む姿勢をもつ。	<ul style="list-style-type: none">◎相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書く力。○自己評価や相互評価を行い、自分の表現に役立てる力。
---	---

【単元を貫く言語活動】

形式や言葉遣いに気をつけて、「中学校の時にお世話になった先生」に対して手紙を書く。

【言語活動の特徴】

手紙には前文、主文、末文、後付という基本的な形式があり、どこにどのような内容を書くかが決められている。その形式を学ばせることもこの単元の学習内容となる。また、手紙を書くときには、形式や内容のみでなく、丁寧に心を込めて書くことが重要であることに気付かせる必要がある。

改まった手紙を書くことは、日本人として当然身に付けておかなければならない力である。しかし、現実を目を向けると、高校生にとっての日常的なコミュニケーションツールはメールやラインであり、友人を相手とした簡略化した文章しか書かない実態にある。今回は、相手を仲の良い友人ではなく教師にすることで、手紙の形式に合わせた改まった文章を書かせ、言葉遣いなどの表現に気をつけながら書く力を身に付けさせたい。

来年度はインターンシップもあり、そこでふさわしいお礼状を書くことができるようにするためにも、今のうちから手紙を書く力を付けておく必要があることを理解させ、関連づけさせたい。

1. 単元名 社会人にふさわしい手紙の書き方を身につけよう！

2. 単元の目標 相手や目的に応じて語句や表現を工夫した手紙を書くことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書こうとしている。

【書く能力】

☆相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。(Bーア)

☆自己評価や相互評価を行い、自分の表現に役立てている。(Bーエ)

【言語についての知識・理解】

☆主な常用漢字を使って書いている。(伝ーウ(ア))

4. 教材 「大修館/国語総合「表現の窓4 手紙を書こう」

5. 単元の展開（全6時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・書・言）等
第0次		普段遠く離れた人への連絡手段は何か考えさせる。	
第1次	第1時	1. これまでに手紙を書いた経験を振り返る。全体 2. 学習課題を設定する。全体 「社会人にふさわしい手紙を書く」 ・来年度、インターンシップのお礼状書きがあることを知り、関連づけて取り組んでいくことを知る。 3. 手紙の形式についてモデル学習。全体 ・教科書をもとに、頭語や時候の挨拶など、手紙の形式について理解する。 4. 学習計画を全体で確認する。全体 ・今回は教師側から提示する。	○改まった手紙を書いた経験が少ないことに気づかせる。 ○中学校で指導された経験もあるため振り返らせながら「社会人としてふさわしい」ことに注目させる。 関 手紙の形式について理解しようとしている。
第2次	第2時	1. 相手を選ぶ。 個人で考える→手紙を送る相手としてふさわしいか グループで意見交換→全体で紙に書いて発表→再検討 2. 内容を考える。 ・どのような内容を書くのか、どのような気持ちを相手に伝えたいのか考え、メモをとる。 個人で考える→グループで交流→個人で再検討	関 社会人としてふさわしい手紙を書くための相手を選ぶことができている。 ○中学校の時に世話になった先生であれば、担任の先生、顧問の先生、教科担の先生など問わない。生徒自身に考えさせ選ばせる。 ○グループでの意見交換の時には、なぜその相手にしたのかという理由も述べさせる。 書 相手や目的に応じて内容を考えることができている。
	第3時	1. 手紙の形式に合わせた構成を考える。個人 2. 敬語について敬語表を作る。 ・個人で考える→全体で確認し敬語表を完成させる。 3. 構成と表現を考えて記述する。	書 手紙の形式を理解し、それに合わせた構成を考えることができている。 書 構成と表現を考え記述することができている。
	第4時	1. 手紙を受け取った立場で読み、推敲し合う。 （相互評価） ・グループで話し合い、一番良いと思った手紙を選ばせる→全体で各グループの代表者が発表	関 ふさわしい文かどうか推敲し、評価できている。
	第5時	1. 推敲を生かして、手紙を清書する。個人 ・本文	書 他の評価や推敲を参考に、相手にふさわしい構成、表現、内容の手紙を書くことができている。
	第6時	1. 封筒の種類や宛名の書き方について学習し、封筒に宛名を書き、切手を貼る。 2. 単元の学習を振り返る。個人→全体	関 これまでの学習を振り返り、手紙についての見方や考え方を深めることができている。
第4次		書いたものを郵送する。	

【第1時 手紙の形式についてのモデル学習】

後付	末文	主文	前文
○○先生 五月二日 ○○○○	日ごとに暑くなってきました。先生もお体に気をつけてお過ごしください。それでは、またお会いできることを楽しみにしております。 ① ②	中学のことは毎日のように懐かしく思い出しています。特にも○○先生には大変御世話になりました。私が部活で悩んでいたときも、親身になって私の話を聞いてくださいましたね。今でも感謝しております。機会をみつけて、また遊びに行かせていただきたいと思っています。 ③	拝啓 青葉の美しい季節になりました。先生いかがお過ごしでしょうか。私は元気に過ごしております。 ④ ⑤

☆手紙の形式

★本時の課題★
手紙の形式について学習し、社会人として、美しい手紙を書くための見通しをとらえよう。

国語総合ワークシート
「社会人にふさわしい手紙の書き方を身に付けよう」①

後付	末文	主文	前文
日付、差出人自分の名前、相手の名前を行を変えて書く。	①結びのあいさつ 相手の体を気遣うなどの別れのあいさつ。 ②結語 よつなものを「敬具」が一般的。ほかにも「敬白」「草々」などがある。	③相手のあいさつ 相手の安否をたずね、次に自分の安否を述べる。	①頭語 「拝啓」が一般的 ②時候のあいさつ 季節や天候について書き、手紙に季節感を添える。 ③相手の安否をたずね、次に自分の安否を述べる。 ④相手のあいさつ 相手の安否をたずね、次に自分の安否を述べる。

★本時の流れ★
1. 手紙を書いた経験を振り返る
2. 学習課題を設定する
3. 手紙の形式について学習する
4. 単元の学習計画を確認する
5. 本時の振り返り

一年 (組) (番)

【第2時 手紙を書く相手と内容を考える】

★メモ★

3年間ずつと担任。
一番迷ったのは、
「お礼」の言葉、
「お礼、とても良い先生だから、変わらね...」

☆グループで交流
もらったアドバイス「いいね」と思った点
自分のために「迷った」
くれた、良い先生、
感謝の気持ち、

1. 相手を選ぶ
*個人で!

先生

理由は...
3年間私の担任、一番迷ったのは、
「お礼」。

担任だった部活の顧問だった迷ったお礼、好きだった などなど

相手とは...

★本時の課題★ 手紙を書く相手と内容も考えよう。

★本時の流れ★
1. 相手を選ぶ
①個人で!
②グループで意見交換!
③全体で発表!
2. 手紙の内容を考える
①個人で!
②グループで交流
↓個人で再検討
3. 本時の振り返り

国語総合ワークシート
「社会人にふさわしい手紙の書き方を身に付けよう」②

一年 (組) (番)

【第4時 グループ協議時の、係ごとの指示シート】

係ごとの指示シート（切り取って配布）

発表係

（セリフ）

私たちの班では「いいねポイント」として「……」、「……」という意見が出ました。「アドバイスポイント」としては、「……」、「……」という意見が出ました。

そこで、私たちが最もいいねと思った〇〇さんの手紙を読んでもらおうと思います。

〇〇さん、手紙を音読

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

記録係

みなが出した意見をまとめよう（同じ意見は書かなくてOK）

〈グループワークシート記入例〉

（ ）班

大きく丁寧な字で！

いいね

アドバイス

・思い出が入っている

・例文のままだった

・感謝の思いが伝わった

・主文がもっと多い方がいいのでは

などなどまとめて書いてください。

進行係（リーダーへ）

話し合いの手順

①手紙を時計回りに回して読む

「今から読みあいましょう。左の人に自分の手紙を渡して下さい。読み終わったら「いいねポイント」と「アドバイスポイント」をメモします。どんどん隣の人に渡していき、自分の手紙が戻ってきたら終了です。」

②それぞれまとめたポイントを発表しあう。

「それぞれまとめたポイントを発表しあいましょう。Aさんの手紙について、Bさんから順番に話して下さい。」
※答える人は「いいねポイントは〇〇なところからアドバイスは〇〇なところです」と言う

聞いた人は「班で出た意見」というスペースにまとめる

③最もいいなと思う手紙を書いた代表者を決める

「それぞれいいなと思った人を教えてください。ではAさんから」「では代表者はCさんでよいですね。」 →終了
※進行係はみなが発言しやすいように「Aさんから初めてください」というようにうながしてください。

時計係

話し合いの間、時間を確認し

「あと5分です。」

というようにメンバーに声をかけてあげること。

時間以内に話し合いが終了するようにうながしてください。

庶務係

ワークシートやペンなどを前に出て先生から受け取り、メンバーに渡して下さい。

その都度「庶務係、集めて前にもってきて！」など指示が出るので注意しててください。

(2) 班

* いいね *

先生への感謝が
伝わってきた。
楽しかった思い出が
書かれていた。

* アドバイス *

ただの反省文みたい
なっていた。
字をきれいに書くべき
だと思う。

(7) 班

* いいね *

自分についてたくさん書いていた
先生への思いが伝わる文面
まとまっていた
バがこもっていた
敬う気持ち伝わった
読みやすい文章構成、字

* アドバイス *

もっと深く書いた方がいい
文末をそろえたほうがいい
漢字にできるところがたくさんある
段落構成わけをしていない
誤字が多い言葉遣い
文章が間違っていた

【第5時 清書する】

拝啓

師走を迎え、なにかと気ぜわしい毎日ですが、風邪などお引きではないです
か。私は元気に過ごしております。

高校に入学して、一年が経とうとしております。部活は、バスケットボール
部に入り、毎日楽しく活動しております。勉強も努力し、毎日充実した
日々を送っております。

中学のことは、今でも懐しく思い出しております。特にも 先生には
大変御世話になりました。担任としてだけでなく、理科の授業では、分か
りやすく丁寧な教えをいただきました。今でもとても役に立っております。本当に
感謝しております。ありがとうございました。

日ごとに寒くなってきました。先生もお体に気をつけてお過ごしくだ
さい。それでは、またお会いできることを楽しみにしております。

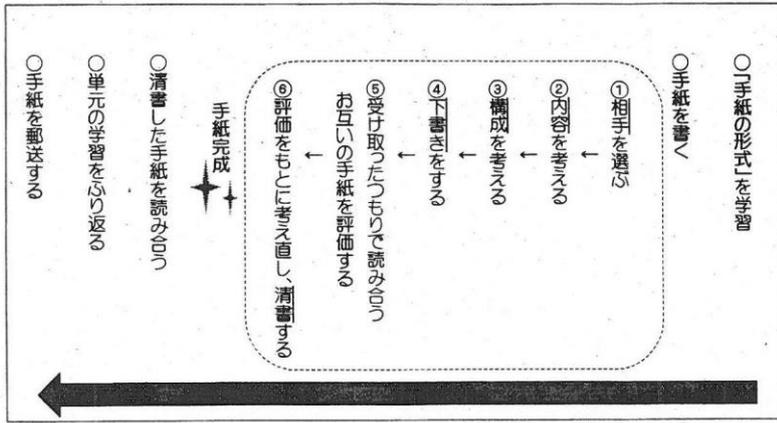
敬具

十二月十五日

岩手県立紫波総合高校 一年

先生

【単元の学習計画と毎時間の振り返り】



★学習計画(学習の流れ)★

★目標★
相手や目的に応じて、語句や表現工夫した手紙を書く。

単元の学習課題
社会人にふさわしい手紙を書く。

学習計画 & 振り返りシート

国際総合ワークシート
「社会人としてふさわしい手紙の書き方を身につけよう」

12月 15日	12月 14日	12月 9日	12月 8日	12月 4日	12月 3日	評価
4	3	2	4	4	4	身についてたこと学習で理解できたこと
で良かった。	良かった。	みんな心のこもった良い手紙だったと思った。話し合いがスムーズに進んでいたの良かった。	下書きのメインの内容がほとんどまもなくして大変なことがあった。それでもよく書いていましたね。目標をクリア!	敬語の種類がわかった。手紙の構成について学ぶことができた。その調子で次回完成	内容があまり決まらなくて変えました。	手紙を書く相手を決めても内容があまり決まらなくて変えました。
に清書することができたので良かった。						手紙は4つの形式にわかれているということがわかった。手紙を書くときには季節や相手について書くということがわかった。

振り返りシート

評価...よく理解した(5)、まあまあ理解した(4)、普通(3)、あまり理解できなかった(2)、全然わからなかった(1)

1年(組) (番)

【第6時 単元の振り返り】

手紙の楽しさが分かった。手紙に手紙は出せることを知った。初めの手紙が楽しかった。将来に役立てたいなと思った。最初の頃は全然興味もたなく、むしろイヤだったが、毎日の課題や目標をこなして行くことにより、文章構成力、手紙についての豆知識も身につけることができ、手紙を書くことの意味や大切さというものを身をもって感じとり、学ぶことができてよかった。

*最後にこの学習を通しての感想を書いてください。(何がわかったか、何がわからなかったか、自分の中で変化があったか、何がおもしろかったか、など)

① これから何をやるか見通しをもって学習することができた。	4	3	2	1
② 何が出来るようになるかはよいかをつかんで学習することができた。	4	3	2	1
③ 単元や今日の課題を意識して学習することができた。	4	3	2	1
④ 何がわかったか、何が大事だったか説明できる。	4	3	2	1
⑤ 今回学んだことはこれからの国語の学習に役立てることが出来る。	4	3	2	1
⑥ 今回学んだことは国語以外の教科でも役立てることが出来る。	4	3	2	1
⑦ 今回学んだことは自分の将来に役立てることが出来る。	4	3	2	1
⑧ 今回の学習は自分にとって意味のあるものだった。	4	3	2	1
⑨ 今回の学習を通して、手紙を書く力を高めることができた。	4	3	2	1

*単元の振り返り
「社会人としてふさわしい手紙を書く」ことを目標として学習してきました。単元の内容を思い返し、自分の学習を振り返ってみましょう。
*数字(○)をつけましょう。
4...とてもよい 3...だいたいよい 2...まあまあよい 1...まったくよいではない

国際総合ワークシート
「社会人としてふさわしい手紙の書き方を身につけよう」
1年(組) (番)

【生徒の書いた手紙①】

拝啓 師走を迎え、なにかと気ぜわしい毎日ですが、先生いかがお過ごしでしょうか。
私は毎日元気に過ごしております。

高校に入学してからはや九か月がたとうとしています。私は郷土芸能部に入り、
毎日楽しく部活をしております。練習を重ね先輩方のように踊れるよう努力しています。

勉強は寝ないようにし、上位になれるよう努力しています。今では学年でも十位までには
いれています。しかし、現代社会は苦手で中学校のときにもと勉強していたらと後悔して
おります。二年生にならうも、と努力して良い報告をしたいと思っております。

部活でも大変御世話になりました。けがが多くいつも「痛い」と言っていたことを、
懐しく思います。機会を見つけて遊ばに行かせていただきたいと思っております。

日ごとに寒くなりインフルエンザも流行する時期となりました。先生もお体に
気をつけてお過ごしください。またお会いできることを楽しみにしております。

敬具

十二月十五日

岩手県立紫波総合高校 一年

先生

【生徒の書いた手紙②】

拝啓

年の瀬も押し迫ってまいりました。先生いかがお過ごしでしょうか。私は毎日元気に過ごして
おります。

高校に入学してはや八か月がたちました。部活は音楽部に入り、毎日楽しい練習を続けて
います。ほかにも新しい夢を見つけて毎日充実した日々を送っています。最近では足の具合も
良くなり、通院生活をおわらせたことができました。

中学のことは毎日のように懐かしく思い出しております。特に先生には大変御世話に
なりました。左足の怪我もですが、進路のことで先生には大変御迷惑をおかけ
しました。先生がこの紫波総合高校を進め下さらなければ保育士になら、という
夢を見つけてこが出来ませんでした。今でも感謝しております。

日ごとに寒くなってきました。先生もお体には気をつけてお過ごし下さい。それでは、
またお会いできることを楽しみにしております。

敬具

十二月十五日

岩手県立紫波総合高校 一年

先生

III 資料編

全国学力・学習状況調査における児童生徒の実態から

平成24年9月に国立教育政策研究所教育課程研究センターは、報告書として『全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ』を教育出版から発行した。

その中で、「書くこと」における課題として

- ① 調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと（小学校）
- ② 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと（中学校）

をあげている。

さらに、この報告書の小学校編には、「4年間の調査結果から課題として考えられる内容と学習指導のポイント」として、「記述する力を高めるための学習指導のポイント」が5ページに渡って掲載されており、その中で、これからの国語科の学習指導においては「書くこと」領域にとどまることなく、「3領域1事項の指導の中で、発達の段階に応じて必要とされる記述の中身を明確にし、系統的・計画的に指導することが求められる」と、記述する力を高める指導の必要性が述べられている。

学校教育法における「教育の目標」と「学力の三要素」

第二十一条 義務教育として行われる普通教育は、教育基本法（平成十八年法律第二十号）第五条第二項に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

五 読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。

第三十条 小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- ② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を大きく、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

学習指導要領「国語科改訂の趣旨」

小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の基本ともなる国語の能力を身に付けさせること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）

基本施策1 確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

【基本的考え方】

- 子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度などの確かな学力を身に付けさせるため、教育内容・方法の一層の充実を図る。その際、特に、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などの育成を重視する。
- このため、グループ学習やICTの活用等による協働型・双方向型の授業への革新、学校と家庭・地域との連携の推進を図りつつ、新学習指導要領を着実に実施する。また、高等学校段階においては、高校生としての基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせるため、生徒の学習の到達度を適切に把握する仕組みを導入するなど、高等学校教育の質保証に向けた取組を進めるとともに、各学校における地域の実情や生徒の実態を踏まえた育成すべき資質・能力に応じたきめ細かい施策を講じる。

指導系統表の整理例 小学校 [B 書くこと]

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目標	(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて分野文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。	(2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えた文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。
	<p>(1) 前段―書く能力、後段―書く態度(全学年共通)</p> <p>2) 高学年までに目的や意図に応じて適切に表現する能力を育成する⇒日常生活に生きて働くようにする⇒他教科等の学習活動と関連付け、書くことが役に立つ場を設定</p> <p>(3) 「経験したことや想像したことなどについて」</p> <p>① 実際経験したことを思い出したり、想像して考えたりしたことなどを手かりにして書く事柄を決めること</p> <p>② 思い出しながら課題が明確になることもあるし、日常的に感じている疑問などから課題を決め、書く事柄を整理することもある</p> <p>4) 「順序を整理」する</p> <p>① 書く事柄を、出来事や行動、情報などの順序に沿って整理すること</p> <p>② 課題を一層明確にしたり、書こうとする題材に必要な事柄を集めたり、文や文章の簡単な構成を考えることにつながる</p> <p>5) 「簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせる」</p> <p>① 構成の能力と記述とを示したものの</p> <p>② 情報や事柄の順序に沿いながら、文章の始めから終わりまでの簡単な構成を意識し、決めた分量や表記の仕方に従って書いていくこと</p> <p>6) 「進んで書こうとする態度を育てる」</p> <p>① 書くことについて、取り上げたい対象や自分の思いを伝えることができる楽しさ</p> <p>② 発表しようことによる評価される喜びなどを実感させる</p> <p>③ 表現する喜びを育てる⇒よりよく表現したいという願いをもつことにつながる</p> <p>(7) 児童一人一人の生活の言葉を大切に、いろいろな機会をとらえて、書くことが必要になる場を設定することが大切</p>	<p>(3) 相手や目的を強く意識しながら課題を設定したり、取材をしたりすることが重要</p> <p>(4) その場を共有しない特定又は不特定の人を想定</p> <p>→話し・聞くことの言語活動よりも難しくなる⇒中学年から</p> <p>5) 書く相手</p> <p>① 保護者や地域の大人などの大人から、同学年・異学年の友達まで多様</p> <p>② 児童が課題意識をもって相手を設定したり、文章を相手がどのように受け止めるかなどについても考えさせたりする</p> <p>6) 書く目的</p> <p>○ 伝える、報告する、説明する、依頼する、案内するなど、具体的な生活の中で必要となるものを取り上げる</p> <p>(7) 「調べたことなど」</p> <p>① 各教科等の学習の中で、様々なことを調べたり、観察したり、見学したりなどの機会が増えるから</p> <p>② ①の活動を通して興味や関心を抱いたり、疑問に思ったり、想像したりしたことなどを取り上げて書く</p> <p>(8) 「段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせる」</p> <p>○ 文章構成の中核となる段落相互の関係について理解し、それに基づいて書くべき内容を構成したり記述したりする</p> <p>(9) 「工夫をしながら書こうとする態度を育てる」</p> <p>○ これまでに身に付けてきた書くことと能力を活用する能動的な態度</p>	<p>(3) 「目的や意図に応じ」</p> <p>① 児童の主体性や個性が高まり、目的を明確にすることが必要</p> <p>② 自分の意図を明確にして書く</p> <p>③ 特定の相手・相手の意図を明確に把握する</p> <p>不特定の相手・読者によって違った受け止め方があることなどにも気付くようにする</p> <p>(4) まとまった考えを書くことへと発展させていく</p> <p>(5) 「文章全体の構成の効果を考えた文章に書く能力」</p> <p>① 自分の考えたことなどの中心の内容を明確にする</p> <p>② 文章全体の構成を考えて表現する</p> <p>③ 文章の種類に応じて、効果を考えながら、読み手にもよく理解できるように構成する</p> <p>(6) 「適切に書こうとする態度を育てる」</p> <p>① 書く目的や意図、相手に応じて、文章の種類を選択し、考えたことを十分に反映させ、文章全体の構成を考えながら適切に書いていく</p> <p>② 記述の段階だけでなく、課題設定や取材の段階も含める</p>
話題設定や取材	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。	ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。	ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を通して事柄を整理すること。
	<p>(1) 「経験したことや想像したことなどから書くことを決め」</p> <p>○ 見たり聞いたりの身の回りの出来事や、自分が経験したこと、さらには想像を膨らませて考えたことなどから、書くことを決めること</p> <p>2) 「書こうとする題材に必要な事柄を集める」</p> <p>① 取材に関すること</p> <p>② 書くために必要な事項を思い出したり、想像したりして、ノートやカードにメモをとっていくことを求めている</p> <p>③ 生活科での学校探検など各教科等における学習で感動したことや、疑問に思ったことなども題材となる</p> <p>(3) 児童は、経験や生活、あるいは興味・関心に違いがある。そのような違いを考慮しながら、一人一人の気持ちや経験を大切に、楽しんで書くようにすることを重視する</p>	<p>(1) 「関心のあることなどから書くことを決め」</p> <p>○ 日常的に興味や関心をもっていること、経験したり人から聞いたりのこと、本を読んで知ったことなどから、自分なりに関心を深めて書こうとすることを決めること</p> <p>2) 「相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる」</p> <p>① 書くことに応じて相手や目的を明確に意識し、必要なことを調べて取材する</p> <p>② 一層知識を得たり、考えを深めたりするためのもの、考えや意見の理由となるものや事例など、必要なことを取材させる</p> <p>③ 調べることができるようにするのは、課題を解決する際に役立つ、各教科等の学習の基礎ともなる重要な能力だから</p> <p>④ 本や文章、リーフレットやパンフレット、音声や映像を利用したり、友達や地域の大人などにインタビューやアンケートを行ったりすることなどから、適切な方法を選択し調べさせる</p>	<p>(1) 「考えたことなどから書くことを決め」</p> <p>① 家庭や地域、学校生活での学習などで感じたり考えたりしたことから選択して書くことを決める</p> <p>② 幾つかのことを比較したり、関係付けたりしながら課題意識を明確にしておくことも意味する</p> <p>③ 目的や意図が明確になっていて、それに従って考えることもあれば、以前から疑問や課題をもっており、そこで考えたことから目的や意図を設定していくことも考えられる</p> <p>(2) 「目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を通して事柄を整理する」</p> <p>① 目的や意図に応じて、取材の内容や方法を考えながら、実際に情報検索したり取材したりした事柄を、文章の構成や記述に役立てよう整理していくこと</p> <p>② 取材の対象や方法としては、本や文章、パンフレットやリーフレット、雑誌や新聞、音声や映像、インタビューやアンケートなど様々なものを取り上げる</p>
構成	イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
	<p>(1) 書きたいことは、書く前から明確である場合もあるが、書くことによって明確になる場合もある</p> <p>2) 低学年では、構成を考えることによって自分の考えを明確にしていくことを重視する</p> <p>(3) 「事柄の順序に沿って簡単な構成を考える」</p> <p>① 取材した事柄の順序に沿いながら、文章の始めから終わりまで、内容のまとまりごとに、いくつかに分けて配置していくことを意識すること</p> <p>② 文章には「始め―中―終わり」などの構成があることを意識できるようにすることが大切</p>	<p>(1) 段落には、改行によって示されるいくつかの文の集まりである形式段落と、その形式段落のいくつかが意味のつながりの上でひとまとまりになった意味段落とがある</p> <p>2) 段落は、文章を構成する単位としての役割をもっている</p> <p>3) 自分の考えが明確になるような文章を構成するためには、累加や並列といった連繋関係や、具体的な事柄と抽象的な事柄、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係に注意することが必要</p> <p>(4) 「冒頭部―展開部―集結部」などの文章の展開に即して、各部分での段落の役割を強く意識して、自分の考えが明確になるように工夫することも重要</p> <p>(5) 段落相互の関係は、網羅的に取り上げるのではなく、実際の文章構成に即して相互関係があることに注意しながら、「自分の考えが明確になるように」書くために必要な相互関係を取り上げて指導する</p> <p>(6) 「伝説的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1)イの(エ)と関連付けて指導する</p>	<p>(1) 「自分の考えを明確に表現する」</p> <p>○ 自分が考えていることを明確にするだけでなく、相手が書き手の考えを明確に理解できるようにすることである</p> <p>(2) 文章全体の構成としては、物語では、「状況設定―発端―事件展開―山場―結末」など、説明的な文章では、「序論―本論―結論」「現状認識―問題提起―解決―結論―展望」などがある</p> <p>(3) 筋書きの内容を位置づける箇所によって、冒頭部で筋書きする場合の「開頭型」、集結部で筋書きする場合の「尾括型」、冒頭部・終結部の双方で筋書きする「両括型」などがある。これらを目的や意図に応じて効果的に用いて、自分の考え及び相手の理解が明確になるような文章を構成する</p> <p>(4) それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいかを考えたり、自分の考えを一貫して述べていくことなどに注意することが大切</p> <p>(5) 書き出しに読み手の関心を喚起する事例を配置したり、概説や要約を活用して読み手や考えを理解しやすいように工夫したり、冒頭部や終結部の書き方を工夫したりすることができるような学習を適切に位置づけることも必要</p> <p>(6) 「伝説的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1)イの(キ)と関連付けて指導すると効果的</p>
記述	ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。	ウ 書くこととすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。	ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。
	<p>(1) 前後の語句や文のつながりを大切に、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせることを重視</p> <p>(2) 離れたところにある語と語や文と文のつながりについては、(キ)なども関連付けて指導すると効果的</p> <p>(3) 「伝説的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1)イ(エ)(オ)(カ)(ク)なども関連付けて指導すると効果的</p> <p>―第5学年及び第6学年の続き</p> <p>⑤ 引用した文章等の典拠については必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるよう指導する。このような指導が、著作権を尊重し、保護することにつながる。</p> <p>(7) 「図表やグラフなどを用いる」</p> <p>① 示すべき事実が、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が一層分かりやすい場合</p> <p>② 観察したり、実験したり、地域社会のことについて調べたりした結果などの事実の記述は、このような図表やグラフを用いる方が自分にとって考えを深めやすいし、相手にとってもよく理解できる</p> <p>③ 図表やグラフは、自分で作成する場合もあるが、本や文章から引用して用いる場合もある</p> <p>④ 描写や説明を行うとき、どのような引用をするのがよいのか、図表やグラフのいづれを用いるのがよいかなど、記述の方法としてふさわしいものを考える</p> <p>⑤ 文章を引用する場合には、引用する部分をかき「()」でくくることや、図表を用いる場合には、本文に「図1は、～」といった表現を用いて本文との関連を示す</p>	<p>エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。</p> <p>(1) 「書くこととすることの中心を明確に」する</p> <p>○ 文章全体を通して中心となる内容を明確に記述したり、段落相互の関係から見て中心となる段落を明確に位置づけたり、各段落の内容の中心を明確に記述したりする</p> <p>2) 目的や必要に応じて、その中心の内容や段落に対して、原因や理由を挙げたり、分かりやすく説明するために事例などを挙げたりする</p> <p>3) 理由については、因果関係がある場合や、複数の要因によって帰結する場合などに応じて、記述する内容を検討したり、「なぜかという～」、「その理由は～」、「～のためである」などの表現について指導したりする</p> <p>4) 事例については、エピソード、考えに該当する事例、具体的な本や文章、絵や写真など事柄のものを取り上げ、描写や説明することなどが重要。「例えば～」「事例を挙げると～」「～などが当たる」などの表現を指導する</p> <p>(5) 文章を記述するときには、相手や目的に応じて敬体と常体のどちらかを使用して書く。それを意識的に使い分けることや、書いていくときに「～だ」、「～である」、「です」、「ます」などの文末表現に注意して書くことが重要。</p> <p>(6) 児童の文章では、敬体と常体が混在していることがあるので、読み直して統一するようにさせることが大切</p>	<p>エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。</p> <p>(1) 出来事や科学的な事実だけでなく、想像したことや、物語などで描写されるフィクションの世界なども「事実」に含まれる</p> <p>(2) 「事実」と自分の感想、意見などを区別して書くことを重視</p> <p>(3) 目的や意図に応じて、事実と感想、意見などを詳しく書いたり、簡単に書いたりするなど事実と感想、意見のそれぞれの記述の仕方について工夫することが必要</p> <p>(4) 出来事などの描写と、科学的な観察や実験、調査結果の説明などとの表現の違いを考えて工夫させる</p> <p>(5) 「C読むこと」(1)のウ、エなどと関連付けて、優れた表現を模範に示すことができるようにすることが効果的</p> <p>(6) 「引用」して書く</p> <p>① 自分の考えを根拠付けたり、具体的な例を示したりする際に、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して、自分の表現に取り入れること</p> <p>② 引用する場合は、まず何のために引用するのかという目的を明確にする必要がある</p> <p>③ 目的としては、人物の行動や会話を物語るため、事柄や出来事、科学的事実などを紹介したり自分の考えを補強したりするためのものと考えられる</p> <p>④ 引用は、原文に正確に行うことや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどに注意する</p> <p>―続きは、第1学年及び第2学年の欄へ</p>

推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 (1)推敲は、指導事項ア～ウのいずれにもかかわる (2)「文章を読み返す習慣を付ける」 ○書くことの表現過程に沿って、話題や題材の絞り方、事柄の順序、語と語及び文と文とのつながりの明確さなどを意識 (3)「間違いなどに気付き、正す」 ①語句の使い方などに注意しながら、一文一文を丁寧に読み返していく ②読み返す際には、主語・述語のつながりや句読点の打ち方など構文上の明確さや、長音、拗音、促音、撥音の正しい使い方などに注意	オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 (1)指導事項ア～エを基に、どのようなところに注意して推敲するかを明確にすることが大切 (2)「文章の間違いを正す」 ○主語と述語及び修飾と被修飾の関係の明確さ、長音、拗音、促音、撥音、助詞などの表記の仕方のまわりこ、敬体と常体、断定や推量、疑問などの文末表現の使い方などに注意する (3)「よりよい表現に書き直す」 ○相手や目的に応じて、自分の考えを明確に記述しているかなどから表現を検討する (4)児童自身が間違いなどを正したり、よりよい表現に書き直したりすることによって整った文章になることが実感できるように、下書きと推敲後の文章を比べるなどの工夫をする	オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 (1)「表現の効果などについて確かめ」 ○自分の考えなどを明確に表しているか、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧さはないかなどについて確かめること (2)「工夫したりする」 ○相手が読んでも理解しやすいように更に改善できる部分について、よりよいものにしていくこと (3)表現の効果を確認したり更に工夫したりするためには、読み手の立場から文章を客観的に評価することが必要 (4)自己評価に加えて相互評価を積極的に行うこと
	オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 (1)全学年を通して新設した指導事項 (2)文章を書くことは、読んでもらう相手がいることが前提。その相手との交流を、書くことの本質として位置付けている (3)書いたものを読み合い、感想を互いに伝え合うことを中心に展開する (4)課題を設定し、学習の見通しをもち、実際に書いてきた過程の全体について、読んでもらった相手の感想を受けて振り返るようにすることが重要	カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 (3)「書いたものを発表し合う」 ①推敲して書き終えた文章だけではなく、学習計画や、取材、構成の段階のメモなど書くことの学習過程についても発表し合うように工夫する ②記述した内容以外に、相手について配慮したことや、記述の仕方などで工夫したことなどを紹介し、自分の考えがなぜそのような考えに至ったのかというきっかけなどについても交流させる	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。 (1)記述した内容そのものに加えて、書こうとした意図、だれに向かっているかのような目的で伝えようとして書いたのか、そのためどのような表現を用いたのかなどを伝えることも必要 (2)「表現の仕方に着目して助言し合うこと」 ①書く目的や意図に応じて文章構成や表現になっているかどうかについて具体的に助言し合う ②助言するときには、修正すべき内容とともに、どのように書き換えればよいかを具体的に指摘することが重要 ③互いの書き上げた文章のよさを感じ取ることを大切にする (4)相手に助言することによって、自分の考えを深めたり自分の表現の参考にしたりする
交流	ア 想像したことなどを文章に書くこと。 イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。 (1)想像したことなどを文章に書く言語活動 ①想像したことなどから、登場人物を決め、簡単なお話を書いたり、見たことや経験して感じたことを詩の形式で書いたりする ②物語の内容について、書き加えたり、書き換えたり、続きを書いたりするなどの活動も考えられる ③自由な想像や想像の世界を膨らませることができるこの時期の児童の特性を生かすことで、一層楽しい活動を行うことが求められる (2)報告や記録の文章を書く言語活動 ①「経験したこと」は、低学年であることを考え、学級や学校、地域や家庭の行事に参加したこと、学校や地域を探検してきたことなどから取り上げる ②報告する相手を明確に設定するとともに、報告するという目的に沿って内容や文章構成を工夫する ③観察したことや観察して感じたことなどを、その場で確実に記録していくことが必要 ④「観察したこと」の対象として、身近な自然の観察や、飼育、栽培している動植物などの観察などが考えられる ④「話すこと・聞くこと」(2)アと関連付けて指導すると効果的 (3)説明する文章を書く言語活動 ①「説明する身近な事物」として、生活科をはじめとした各教科等の学習、学校生活や家庭生活において、児童が慣れ親しんでいる事物が考えられる ②事物の特徴に沿って、説明する順序を考えながら、形状や様子、動きなどを簡単に文章に書く (4)紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりする言語活動 ①児童は、人物や遊び、施設、本、絵など、日常生活の中に紹介したいことを多くもっている ②児童が紹介したいことを活用し、紹介のためのメモや文章を書くようにする (5)実用的な文章を書く言語活動 ①手紙を書く学習では、相手を明確にして伝えたり、返事をもったりという交流を重視する ②形式を重んじることも、短い文や伝言でもよいので、書いた手紙で交流する楽しさを感じ取らせる	ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくり、物語を書いたりすること。 イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。 (1)詩や物語などの文学的文章を創作する言語活動 ①学校や家庭、地域などで実際に見聞したり、行動したり、経験したりしたことや想像したことなどを基に、詩をつくり、物語を書いたりする ②「C読むこと」(2)アとの関連を図り、詩や物語の基本的な特徴を理解し、書くことを楽しむようにする ③詩は、凝縮した表現であること、普通の文章と違った改行形式や連いによる構成になっていることといった特徴も持っている ④物語は、主人公やその他の登場人物がそれぞれの役割もっていること、フィクション(虚構)の世界が物語られていること、冒頭部状況や登場人物が設定され、事件とその解決が繰り返され発端から結末へと至る事件展開によって構成されていることなどの特徴も持っている ⑤詩も物語も、語り手が、一人称や三人称などの視点から語っていく形式となっている ⑥詩や物語の特徴を必ずしも十分満たさなくても、児童の思いを大切に創造的な表現をすることの楽しさを実感させる (2)調べたことを基に報告する文章を書いたり、それを学級新聞などの記事として生かしながら編集したりする言語活動 ①「疑問に思ったことを調べて」 ・自分の経験したことの中から不思議に思ったことや、身の回りの事柄や学習した事柄について疑問に思っていることなどを調べること ②調べた結果を友達に説明するなど、書く相手や目的を明確にもつことのできる場面の設定が必要 ③設定した相手、目的や場面に応じて、書く材料の収集や選択の仕方、まとめ方などを練習し工夫する ④報告する文章や学級新聞などの特徴に基づいて書く ⑤調査を報告する文章では、調査の目的や方法、調査の結果とそこから考えたことを明確に書く ⑥学級新聞では、複数の種類の文章を集めて編集し、見出しを付けたり記事を書いたり、割り付けをししたりする (3)資料を使い、説明する文章などを書く言語活動 ①「収集した資料を効果的に使い」 ・説明する相手や目的に応じて、本や文章、図表、絵画、写真、具体物などの資料を収集し、考えを高めること、構成や記述のためにこれらの資料を活用すること ②書くべき「説明する文章など」には、文章だけでなく、図鑑や小冊子などの形も考えられる ③文章を図解する資料となっていることや、写真やグラフなどを具体的に解説した文章となっていることなど、文章と図表などの資料とが相互に密接な関係をもつものであることを意識できるようにする (4)実用的な文章としての手紙を書く言語活動 ①地域での体験学習の指導を依頼する手紙、地域の方にお世話になったことへのお礼の手紙など ②表書きに宛てて名前や住所などを正しく書くことや、後付けに付ける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式なども押さえる	ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短文、俳句をつくり、物語や随筆などを書いたりすること。 イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり、編集したりすること。 ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。 (1)経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短文、俳句をつくり、物語や随筆などの文学的文章を創作したりする言語活動 ①短歌や俳句をつくることは、中学年の(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)(1)アの(ア)と関連づけ指導すると効果的 ②身近な情景や生活の中での出来事をとらえ、伝統的な定型詩の特徴を生かした創作を行うことによって、七音五音を中心とする言葉の調子やリズムに親しんだり、凝縮した表現によって創作する楽しさを味わえるようにすることが大切 ③創作によって、短歌や俳句の特徴を一層理解するとともに、それらを更に読もうとする態度を養うことにつながる。 ④随筆は、身近に起こったこと、見たことや聞いたこと、経験したことなどを他の人にも分かるように描写した上で、感想や感慨、自分にとっての意味などをまとめたものである ⑤随筆を書くことで、出来事や経験などをきつかけに、自分自身も持っているもの見方や考え方、生き方などを見つめ直したり深めたりすることができる。そのため、考えるきっかけになった出来事や経験などを体系的にまとめて書くことが必要となる ⑥随筆では、物語や詩などを書き身に付けてきた描写などの文学的文章の表現力を生かすことになる。また、そのような出来事や経験などの事情や背景を想像したり推測したりして、自分の考えを記述したり説明したりする必要がある。説明や報告などを書き身に付けてきた説明的な文章の表現力なども生かすことが大切である (2)児童一人一人が課題をもち、その課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり、それらの文章を活用して編集したりする言語活動 ①「自分の課題について調べる」 ・一人一人の児童が課題を設定し、それについて調べた知識や情報を得ること ・課題は、自分自身の経験に基づいて設定する場合、資料などを読んで更に調べたいと思っ設定する場合、交流を通して設定する場合、自分がこれまで書いたものを読み返して設定する場合などが考えられる ②「意見を記述した文章や活動を報告した文章など」を書く ・課題に応じてどのような種類の文章を用いるのかを明確に意識すること ・ほか、調査や研究を報告する文章、解説したり提案をしたりする文章などが考えられる ③「書いたり編集したりする」 ・一つの文章を書くことに加え、複数の文章を一定の目的の下に組み合わせて表現すること ・意見や活動の報告文集、本や新聞、リーフレットやパンフレットなどを編集することなど ・目的や意図に応じた編集として章立てや節などを工夫するとともに、題名や前書き、目次、後書き、奥付などを付け、実際の本や新聞、雑誌などの編集に合わせるようにする
	ア 想像したことなどを文章に書くこと。 イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。 (1)想像したことなどを文章に書く言語活動 ①想像したことなどから、登場人物を決め、簡単なお話を書いたり、見たことや経験して感じたことを詩の形式で書いたりする ②物語の内容について、書き加えたり、書き換えたり、続きを書いたりするなどの活動も考えられる ③自由な想像や想像の世界を膨らませることができるこの時期の児童の特性を生かすことで、一層楽しい活動を行うことが求められる (2)報告や記録の文章を書く言語活動 ①「経験したこと」は、低学年であることを考え、学級や学校、地域や家庭の行事に参加したこと、学校や地域を探検してきたことなどから取り上げる ②報告する相手を明確に設定するとともに、報告するという目的に沿って内容や文章構成を工夫する ③観察したことや観察して感じたことなどを、その場で確実に記録していくことが必要 ④「観察したこと」の対象として、身近な自然の観察や、飼育、栽培している動植物などの観察などが考えられる ④「話すこと・聞くこと」(2)アと関連付けて指導すると効果的 (3)説明する文章を書く言語活動 ①「説明する身近な事物」として、生活科をはじめとした各教科等の学習、学校生活や家庭生活において、児童が慣れ親しんでいる事物が考えられる ②事物の特徴に沿って、説明する順序を考えながら、形状や様子、動きなどを簡単に文章に書く (4)紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりする言語活動 ①児童は、人物や遊び、施設、本、絵など、日常生活の中に紹介したいことを多くもっている ②児童が紹介したいことを活用し、紹介のためのメモや文章を書くようにする (5)実用的な文章を書く言語活動 ①手紙を書く学習では、相手を明確にして伝えたり、返事をもったりという交流を重視する ②形式を重んじることも、短い文や伝言でもよいので、書いた手紙で交流する楽しさを感じ取らせる	ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくり、物語を書いたりすること。 イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。 (1)詩や物語などの文学的文章を創作する言語活動 ①学校や家庭、地域などで実際に見聞したり、行動したり、経験したりしたことや想像したことなどを基に、詩をつくり、物語を書いたりする ②「C読むこと」(2)アとの関連を図り、詩や物語の基本的な特徴を理解し、書くことを楽しむようにする ③詩は、凝縮した表現であること、普通の文章と違った改行形式や連いによる構成になっていることといった特徴も持っている ④物語は、主人公やその他の登場人物がそれぞれの役割もっていること、フィクション(虚構)の世界が物語られていること、冒頭部状況や登場人物が設定され、事件とその解決が繰り返され発端から結末へと至る事件展開によって構成されていることなどの特徴も持っている ⑤詩も物語も、語り手が、一人称や三人称などの視点から語っていく形式となっている ⑥詩や物語の特徴を必ずしも十分満たさなくても、児童の思いを大切に創造的な表現をすることの楽しさを実感させる (2)調べたことを基に報告する文章を書いたり、それを学級新聞などの記事として生かしながら編集したりする言語活動 ①「疑問に思ったことを調べて」 ・自分の経験したことの中から不思議に思ったことや、身の回りの事柄や学習した事柄について疑問に思っていることなどを調べること ②調べた結果を友達に説明するなど、書く相手や目的を明確にもつことのできる場面の設定が必要 ③設定した相手、目的や場面に応じて、書く材料の収集や選択の仕方、まとめ方などを練習し工夫する ④報告する文章や学級新聞などの特徴に基づいて書く ⑤調査を報告する文章では、調査の目的や方法、調査の結果とそこから考えたことを明確に書く ⑥学級新聞では、複数の種類の文章を集めて編集し、見出しを付けたり記事を書いたり、割り付けをししたりする (3)資料を使い、説明する文章などを書く言語活動 ①「収集した資料を効果的に使い」 ・説明する相手や目的に応じて、本や文章、図表、絵画、写真、具体物などの資料を収集し、考えを高めること、構成や記述のためにこれらの資料を活用すること ②書くべき「説明する文章など」には、文章だけでなく、図鑑や小冊子などの形も考えられる ③文章を図解する資料となっていることや、写真やグラフなどを具体的に解説した文章となっていることなど、文章と図表などの資料とが相互に密接な関係をもつものであることを意識できるようにする (4)実用的な文章としての手紙を書く言語活動 ①地域での体験学習の指導を依頼する手紙、地域の方にお世話になったことへのお礼の手紙など ②表書きに宛てて名前や住所などを正しく書くことや、後付けに付ける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式なども押さえる	ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短文、俳句をつくり、物語や随筆などを書いたりすること。 イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり、編集したりすること。 ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。 (1)経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短文、俳句をつくり、物語や随筆などの文学的文章を創作したりする言語活動 ①短歌や俳句をつくることは、中学年の(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)(1)アの(ア)と関連づけ指導すると効果的 ②身近な情景や生活の中での出来事をとらえ、伝統的な定型詩の特徴を生かした創作を行うことによって、七音五音を中心とする言葉の調子やリズムに親しんだり、凝縮した表現によって創作する楽しさを味わえるようにすることが大切 ③創作によって、短歌や俳句の特徴を一層理解するとともに、それらを更に読もうとする態度を養うことにつながる。 ④随筆は、身近に起こったこと、見たことや聞いたこと、経験したことなどを他の人にも分かるように描写した上で、感想や感慨、自分にとっての意味などをまとめたものである ⑤随筆を書くことで、出来事や経験などをきつかけに、自分自身も持っているもの見方や考え方、生き方などを見つめ直したり深めたりすることができる。そのため、考えるきっかけになった出来事や経験などを体系的にまとめて書くことが必要となる ⑥随筆では、物語や詩などを書き身に付けてきた描写などの文学的文章の表現力を生かすことになる。また、そのような出来事や経験などの事情や背景を想像したり推測したりして、自分の考えを記述したり説明したりする必要がある。説明や報告などを書き身に付けてきた説明的な文章の表現力なども生かすことが大切である (2)児童一人一人が課題をもち、その課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり、それらの文章を活用して編集したりする言語活動 ①「自分の課題について調べる」 ・一人一人の児童が課題を設定し、それについて調べた知識や情報を得ること ・課題は、自分自身の経験に基づいて設定する場合、資料などを読んで更に調べたいと思っ設定する場合、交流を通して設定する場合、自分がこれまで書いたものを読み返して設定する場合などが考えられる ②「意見を記述した文章や活動を報告した文章など」を書く ・課題に応じてどのような種類の文章を用いるのかを明確に意識すること ・ほか、調査や研究を報告する文章、解説したり提案をしたりする文章などが考えられる ③「書いたり編集したりする」 ・一つの文章を書くことに加え、複数の文章を一定の目的の下に組み合わせて表現すること ・意見や活動の報告文集、本や新聞、リーフレットやパンフレットなどを編集することなど ・目的や意図に応じた編集として章立てや節などを工夫するとともに、題名や前書き、目次、後書き、奥付などを付け、実際の本や新聞、雑誌などの編集に合わせるようにする

指導系統表の整理例 中学校 [B 書くこと]

	第1学年	第2学年	第3学年
目標	<p>(2) 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考へて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。</p> <p>(1) 前段＝書く能力、後段＝書く態度（全学年共通）</p> <p>(2) 「目的や意図に応じ」る＝だれに向けて何のために書くのかなどという意識をもち、目的や意図に沿うように工夫して書くことができるようにする。（全学年共通）</p> <p>(1) 「日常的にかかわることなどについて」</p> <p>① 日常生活にかかわる様々な事象から書くべき課題を決める</p> <p>② 課題に即して自分の考えをまとめるために、小学校での学習を生かして材料を集め整理する</p> <p>(2) 「構成を考へて的確に書く能力」</p> <p>① 内容を分かりやすく伝えるために構成を工夫する</p> <p>② 根拠を明確にして書く能力</p> <p>③ 分かりやすい文章にするためには、文章を読み返す習慣を付けることが大切</p> <p>(3) 「進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度」</p> <p>① 書くことよって自分の考えが明確になることを認識し、課題の解決のために積極的に文章を書くこととする態度</p> <p>② 小学校と比べて、考えをまとめる目的や場面が一層多様化する第1学年においては、書くことの意義と役割を認識させることが大切</p>	<p>(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。</p> <p>(1) 「社会生活にかかわることなどについて」</p> <p>① 「日常生活にかかわることなどについて」から視野を広げ、人間、社会、文化、自然など、社会生活全般にかかわることの中から書くべき課題を決める</p> <p>② 課題に即して自分の考えをまとめる際には、多様な方法で材料を集め整理する</p> <p>(2) 「構成を工夫して分かりやすく書く能力」</p> <p>① 伝えたい事柄や意見などが相手に効果的に伝わるように構成を工夫</p> <p>② 説明や具体例などを書き加えたりして書く能力</p> <p>③ 読みやすい文章にするためには、表現の仕方に注意して文章を読み返す習慣を育成することが重要</p> <p>(3) 「文章を書いて考えを広げようとする態度」</p> <p>① 材料を集めることや効果的に書くことを一層充実させることよって、自分の考えを伝え直してあげようとする態度</p> <p>② 書くことよって、複雑な事象の中身や、物事に対する多様な考えなどが整理され、自分の考えを広げることにつながっていくことを理解させることが大切</p>	<p>(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。</p> <p>(1) 「社会生活にかかわることなどについて」</p> <p>① 第2学年と同じく、社会生活の中から広く課題を求める</p> <p>② 材料を集めながら自分の考えを深めるようにすることに留意</p> <p>(2) 「論理の展開を工夫して書く能力」</p> <p>① 書き手の考えが説得力をもって伝わるように、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の選び方 ・文章全体の構成 ・記述の仕方などを工夫して書く能力のこと <p>② これまで身に付けてきた書くことの能力が、総合的に発揮されるようにする</p> <p>(3) 「文章を書いて考えを深めようとする態度」</p> <p>① 文章を論理的に書き表すことで、認識や思考を深めようとする態度のこと</p> <p>② 様々な情報があふれている社会の中で自分の立場や考えを明確にしているために、書くことが果たしている重要な役割を認識させることが大切</p>
	課題設定や取材	<p>ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。</p> <p>(1) 「日常生活の中から課題を決め」る</p> <p>① 日常生活で直接体験したことをはじめ、他教科等で学習したこと、友人や家族から聞いたことの中から興味や関心をもったことなどが選ばれる</p> <p>② 「課題」として明確にするためには、何について、だれに向けて、何のために書くのかを具体的に必要</p> <p>③ 疑問に思ったことについて調べ、問題点について意見を述べるなど、文章を書く目的を明らかにすることがその後の学習につながっていく</p> <p>(2) 「材料を集めながら自分の考えをまとめること」</p> <p>① 材料を集める段階においては、本、新聞、雑誌、テレビ、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用が考えられる</p> <p>② 「C読むこと」の読書と情報活用に関する指導との関連を図ることが重要</p>	<p>ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。</p> <p>(1) 課題設定の対象を「社会生活」全般に広げて示している</p> <p>(2) 人間、社会、文化、自然などにかかわる様々な課題を設定し、多様な方法よってそれに関連する材料を収集することなどを重視</p> <p>(3) 「多様な方法」</p> <p>① 第1学年において示した方法に加え</p> <p>② 学校図書館や地域の図書館、公共施設などを利用した資料の収集</p> <p>③ 材料を集め、比較、検討しながら自分の考えをまとめることが大切</p> <p>(4) 取材に関しては「A話すこと・聞くこと」においても指導する。情報の活用については「C読むこと」においても指導する。それぞれの指導と関連を図ることが必要</p>
構成	<p>イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考へて文章を構成すること。</p> <p>(1) 「集めた材料を分類するなどして整理する」</p> <p>① 問題点を見いだしたり、自分の考えをまとめたりするために必要なだけでなく、文章の構成を考える上でも効果的</p> <p>② 書く目的や意図に応じて集めた材料を取捨選択したり、関連を考へて分類したり、時間的な推移や因果関係などに基づいて整理したりすることよって、書くこととする事柄のまとまりや順序が明確になる。その上で、段落の役割を考へて文章の構成を考へるようになる</p> <p>(2) 「段落の役割」</p> <p>① 小学校の指導を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題や課題などについて述べる段落 ・集めた材料などについて分析する段落 ・それらを基に自分の考えや意見を述べる段落など <p>段落の役割を考へて構成することを指導する</p> <p>② 段落の役割を明確にするために、「さらに」、「たとえば」、「しかし」など、連関係を示す言葉などを効果的に用いることも指導するよう配慮する</p>	<p>イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。</p> <p>(1) 「自分の立場」を明確にする</p> <p>① 意見を述べる文章などで重要</p> <p>② 取り上げる問題や課題に対する賛否や解決方法などについて、自分がどのように考へているかを明確にする</p> <p>③ 立場を表明する部分をどこに置かれるかよって、「頭括弧型」、「尾括弧型」、「双括弧型」の構成を考へる</p> <p>(2) 「伝えたい事実や事柄」</p> <p>① 意見を述べる文章などでは、自分の立場を支える根拠として重要</p> <p>② 記録や報告の文章では、事実や事柄そのものが伝えるべき中心の内容となる</p> <p>(3) 「構成」</p> <p>① 役割に応じて、伝えたい事実や事柄を文章全体のどこに位置付けることが適切であるかを考へながら書くように指導する</p> <p>② 物語を書くような場合には、伝えたい事柄が、どのように推移し展開したのかを明確にするように、場面や登場人物などの設定や事件の発端、山場、結末などの文章の構成を考へて書くことが大切</p>	<p>イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用などして、説得力のある文章を書くこと。</p> <p>(1) 「論理の展開」</p> <p>① 初めに自分の意見を述べ、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性、妥当性を示す書き方</p> <p>② 具体的事実から一般化し、自分の意見の正当性、妥当性へと結びつける書き方など</p> <p>③ これらは、論理の展開を考へる場合の基本となる組立て方といつてよい。このことを基本に据えて論理の展開を工夫することが大切</p> <p>(2) 「説得力のある文章」</p> <p>① 客観性や信頼性の高い資料を選んで用いることが重要</p> <p>② 資料の内容を吟味することについては、各領域を通じてこれまで指導してきた</p> <p>③ 第3学年では、選んだ資料を「適切に引用する」ためには、自分の考えの根拠としてふさわしいかどうかについて検討したり、引用部分を明らかにした上で、資料が伝えたいことと自分の考えとの関係について補足したりすることが重要</p> <p>(3) 引用の際には、かぎ（「」）でくくると、出典を示すこと、引用する文章が適切な量であることなどが大切</p>
記述	<p>ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。</p> <p>(1) 「根拠を明確にして書く」</p> <p>① 文章の中の自分の考えや気持ちについての根拠が、明確に書かれているかどうかを常に吟味する</p> <p>② 自分の思いや考えを繰り返すだけでは相手によく伝わる文章とはならず、複数の実例や専門的な立場からの知見を示すことなどが重要</p> <p>③ 記述に当たっては、接続詞の使用や段落構成の工夫などよって、読み手に対して、どの部分が根拠であるかを明確にするような表現上の工夫をすることが大切</p>	<p>ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。</p> <p>(1) 「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように」する</p> <p>① 分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容にもっともふさわしい語句を選んで描写を工夫したりする</p> <p>② 説明や具体例を取り上げているのは、考えや意見の根拠となる事実や事柄は、具体的に記述することで説得力が増すことが多いから</p> <p>③ 描写を取り上げているのは、中学校段階において、人間の心の動きや、自然現象を含む身の回りの様々な物事、印象に残る経験などを見つめ直して、それをイメージ豊かに文章に表すことを求めているから</p> <p>④ 「C読むこと」における文学的な文章についての指導とも関連する</p>	<p>イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用などして、説得力のある文章を書くこと。</p> <p>(1) 「論理の展開」</p> <p>① 初めに自分の意見を述べ、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性、妥当性を示す書き方</p> <p>② 具体的事実から一般化し、自分の意見の正当性、妥当性へと結びつける書き方など</p> <p>③ これらは、論理の展開を考へる場合の基本となる組立て方といつてよい。このことを基本に据えて論理の展開を工夫することが大切</p> <p>(2) 「説得力のある文章」</p> <p>① 客観性や信頼性の高い資料を選んで用いることが重要</p> <p>② 資料の内容を吟味することについては、各領域を通じてこれまで指導してきた</p> <p>③ 第3学年では、選んだ資料を「適切に引用する」ためには、自分の考えの根拠としてふさわしいかどうかについて検討したり、引用部分を明らかにした上で、資料が伝えたいことと自分の考えとの関係について補足したりすることが重要</p> <p>(3) 引用の際には、かぎ（「」）でくくると、出典を示すこと、引用する文章が適切な量であることなどが大切</p>

<p>推敲</p>	<p>エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。</p> <p>(1)自分の書いた文章を見直すことによって、伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に書き表されているかどうかを検討することが推敲である</p> <p>(2)第1学年では、特に「表記や語句の用法、叙述の仕方など」について確かめることを重視して指導する</p> <p>(3)「表記や語句の用法」を確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文字や表記が正しいか ②漢字と仮名の使い分けが適切か ③語句の選び方や使い方が的確であるかなどをみることである <p>(4)学校の(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)における、表記に関する事項や語句に関する事項の指導を踏まえることが重要</p>	<p>エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。</p> <p>(1)「読みやすく分かりやすい文章にする」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①伝えたい事柄等にふさわしい語句や文の使い方になっているか ②段落の分け方、段落相互の関係は適切か ③全体と部分の関係などよになっているかなどについて検討させることが重要 <p>(2)読み手がその文章を読む意図や目的を意識して読み返すことが大切</p>	<p>ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。</p> <p>(1)第3学年では、文章の形態に応じて全体を読み返し、目的に合った効果的な体裁を整えることを重視</p> <p>(2)記録や報告の文章では小見出しや目次を付けたり、手紙の文章では頭語や結語を添えたりすることなど</p>
<p>交流</p>	<p>オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。</p> <p>(1)書いた文章を交流し合うことについて示している</p> <p>(2)文章を書く過程で学んだことを基に、どのようなことを重点に交流するかを明確にする必要がある</p> <p>(3)「題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなど」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①指導事項の「ア、イ、ウを踏まえた観点 ②これらについて、互いに文章を読み合いながら意見を述べたり助言をしたりすることを求めている ・題材をどのようにしてとらえたか ・材料をどのようにして収集、整理したか ・根拠にあたる部分をどのように明確に書いたかなど <p>(4)交流を通して学んだことを、その後の自分の表現の参考にすることが大切</p>	<p>オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。</p> <p>(1)「文章の構成や材料の活用の方など」に重点を置いて、書いた文章を互いに読み合うことを求めている</p> <p>(2)これまで学んできた文章の構成や材料の活用の方などを踏まえ、工夫した点などについて交流したり助言し合ったりする</p> <p>(3)自分の書いた文章に対する意見や助言によって気付かされたり、改めて認識したりしたことを明確にし、自分の表現に役立てようとすることも重要</p>	<p>エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、もの見方や考え方を深めること。</p> <p>(1)書いた文章を見直し、論理の展開の仕方や表現の仕方について評価することを示している</p> <p>(2)書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などに重点を置いて、相互に評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○結論に導くための理由や根拠の取り上げ方や論理の展開の仕方などに着目する <p>(3)学習活動としての評価は、生徒自身が表現を客観的にみる能力を育て、表現能力を一層伸ばすことに役立つ。</p> <p>(4)自分の書いた文章に対する評価によって気付かされたり改めて認識したりしたことを意識し、自分の表現をよりよいものに高めたり、自分の見方や考え方を深めたりすることも重要</p>
<p>言語活動例</p>	<p>ア 関心のある芸術的な作品などについて、干渉したことを文章に書くこと。</p> <p>イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。</p> <p>ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。</p> <p>(1)関心のある芸術的な作品などについて、干渉したことを文章に書く言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「芸術的な作品など」 ・絵画や音楽、彫刻や建築物などを含め、幅広く考える ②「鑑賞」 ・表現の仕方、内包されている意思などについて、多様な角度から光を当てて、その良さを発見したり味わったりすること ・「鑑賞したことを文章に書く」時には、対象や素材の表現の仕方、作り手の思いや見方、作品から受けた印象や感動などについて触れることが大切 <p>(2)図表などを用いた説明や記録の文章を書く言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①説明の文章では、相手や目的に応じて伝えたい事実や事柄を的確に記述することが求められる ②記録の文章は、目的や意図に応じて事実や事柄といった情報を正確に記述することが必要 ③日常生活や生活の中で、説明や記録の文章を分かりやすいものにするために図表などを用いることがある。そこで、効果的な図表の使い方について考えさせることが大切 <p>(3)行事等の案内や報告をする文章を書く言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①行事等の案内や報告をする文章では、相手や目的に応じて、伝えるべき事柄を簡潔に分かりやすく書くことが大切 ②友人に伝える場合と、友人以外の第三者に伝える場合とでは、どのような情報を取り上げるかが変わってくる ③伝えるべき事柄としては、行事名、日時、場所などという一般的なものに加え、それぞれの案内や報告に応じた個別的な要素が考えられる ④形式も、ポスターやパンフレット、手紙、新聞などという多様なものの中から、目的や効果を考慮して選択することになる。その上で、読み手に分かりやすく伝えるための記述や構成の工夫などについて考えさせることが大切 	<p>ア 表現の工夫をして、詩歌をつくりたり物語を書いたりすること。</p> <p>イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。</p> <p>ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。</p> <p>(1)表現の工夫をして、詩歌をつくりたり物語を書いたりする言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①身の回りの物事や体験、心の動きなどをとらえて詩歌をつくりたり物語を書いたりすることは、生徒のもの見方や完成を豊かなものにするにつながる ②事柄や心情が相手に伝わるように、描写を工夫して書くことなどの指導に効果的 <p>(2)多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書く言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「多様な考えができる事柄」 ・社会生活の中の様々な問題を取り上げることが考えられる ・読むことの指導と関連させて、 説明的な文章における筆者の意見や論の進め方 文学的な文章における登場人物のもの見方や考え方を取り上げることも考えられる ②「意見を述べる文章を書く」 ・どのような事柄についてどのような意見を持ち ・どのような論の展開で記述するかを考え ・論点について賛成か反対かなど自分の立場を決め ・自分の考えの中心や主張を明確にして書くようにすることが大切 <p>(3)社会生活に必要な手紙を書く言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①手紙の種類 ・近況を伝える手紙 ・何かを依頼する手紙 ・お礼の気持ちを伝える手紙など ②具体的な相手意識や目的意識が必要 ③手紙を書く際は、伝える相手の立場や気持ちに配慮する ④伝えたい内容を明確にし、言葉を選び、気持ちを込めて書くことが大切 ⑤手紙を書く相手に具体的に定め、郵便等を通じて実際に手紙のやり取りを行わせることも効果的 ⑥書写の指導との関連を図ること、また、手紙の形式を覚えさせるだけでなく、形式のもつ意味について考えさせることも大切 	<p>ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。</p> <p>イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。</p> <p>(1)関心のある事柄について批評する文章を書く言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「批評」 ・対象とする事柄について、そのものよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりすること ②「関心のある事柄」 ・社会生活にかかわる様々な事柄や出来事考えることができる ③批評するには、書き手の視野の広さや、論理的に物事を考える力が大切である。そのためには、関心のある事柄について、関連する事柄や背景などにも興味をもたせ、書き手の主観だけでなく、客観的、分析的に物事を見つめる姿勢を持たせることが必要 ④記述に関しては、対象となる事柄を分かりやすく説明したり、判断や評価の理由や根拠などを明確に示したりすることが求められる <p>(2)目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集する言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「編集する」という言語活動は、一つの文章を書くだけでなく、幾つかの文章を書いて組み合わせることを通して、総合的に考えたり伝えたりする力を高める上で効果的である ②新聞やパンフレット、発表のための資料を編集することなどが考えられる ③それぞれの形態に応じて、紙面構成を工夫したり、図表などを効果的に用いたりすることが大切である ④複数の文章を集めて、課題やテーマに即して整理する活動も考えられる ⑤文章を一つにまとめる意図や目的を明確にして編集することが大切である

指導系統表の整理例 高等学校 [B 書くこと]

	国語総合	国語表現	現代文B
科目の目標	<p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p> <p>(1) 学校及び中学校国語の目標を受け継いでいる</p> <p>(2) 前段</p> <p>① 国語による表現と理解の能力の育成（「国語総合」の基本的な役割）</p> <p>② 人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力＝伝え合う力を高める（「国語総合」の中心的なねらい）</p> <p>(3) 後段</p> <p>① 思考力や想像力の伸長</p> <p>② 豊かな感性や情緒（他人を思いやる心や感動する心）</p> <p>③ 言語感覚</p> <p>④ 表現の効果について適切に判断する能力</p> <p>⑤ 言語文化への関心</p> <p>⑥ 国語を尊重し、国語の向上を図る態度</p>	<p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p> <p>(1) 前段</p> <p>① 「国語で適切かつ効果的に表現する能力」 ・ 思想、感情、知識、情報などを ・ 国語総合の「適切」に「効果的」を加えている</p> <p>② 「効果的に表現する」 ・ 適切な言葉の選択と使用とことまらず、自分らしさを十分に出しながら、相手を納得させ共感も得られるような、説得力のある表現や感動を与える表現</p> <p>③ 「伝え合う力」 ・ 小学校、中学校及び「国語総合」と一貫して高めてきているこの力を、いっそう確か豊かなものとする</p> <p>(2) 後段</p> <p>① 「思考力」 ・ 判断し、類推し、構成するなどの思考過程に関する能力 ・ 実効的な言語活動によって育成され、想像につながっていく</p> <p>② 「想像力」 ・ 予測し、検討し、見通しをもって行動するために、豊かな感性や情緒を育むために、想像力を伸ばすことが大切</p> <p>③ 「言語感覚を磨く」 ・ 言葉の適切さや美しさなどを判断する感覚を洗練することで、表現の質を一段と高めること</p> <p>④ 「進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる」 ・ 国語そのものや自らの言語の運用を省み、その長所を伸ばし、不十分などがあれば改善して国語の向上を図る態度を育成する ・ 人生を豊かにし、人間相互の理解を深め、社会生活の充実を図る態度を育成する</p>	<p>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読むことによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。</p> <p>(1) 総合的な言語能力を育成する科目としての性格を一層明確にした</p> <p>(2) 前段</p> <p>① 教科の目標とは逆に、「的確に理解」するを、前に置いているのは、読むことを中心とする科目であることを示すため</p> <p>② 文章を理解することは、書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方に触れ、それについて思考したり、想像したり、批評したりする活動であり、そこには表現活動を伴うことが多い</p> <p>(3) 理解と表現の能力を高める⇒日常的に、情報をとらえ、考察し、それをまとめて表現するために必要不可欠なこと</p> <p>(4) 進んで読む＝小学校、中学校及び「国語総合」と一貫して「読むこと」の領域を中心に、その指導を重視している</p>
	題材選定・取材・表現の工夫	<p>ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。</p> <p>(1) 「相手や目的に応じて」 ○ だれに向かって、何のために書くのかを考え、ふさわしくすること</p> <p>(2) 「題材を選ぶ」が ① 何について書くのかという、書く事柄や対象を選ぶこと</p> <p>② 自分自身の体験や思索ばかりでなく、読書や調査、観察などで材料について、その取捨選択を行う</p> <p>③ 相手が、その題材に詳しい人かどうか、自分が親しい人かどうかなど、また、用いる材料が、主張、論証、例示などのいずれのためであるかなどに留意する</p> <p>④ 材料を収集する方法やそれを選択する力を身に付けさせることも含んでいる</p> <p>(3) 「文章の形態」 ① 文学的な文章、論理的な文章、実用的な文章などを指す</p> <p>② 書くことの指準における言語表現の種類としては、見たことや感想、感動を伝えるための文章、説明、記録、報告、意見、主張のための文章、通信や伝達を目的とした文章などがある</p> <p>(4) 「文体」 ① 和文体と漢文体と翻訳文体、散文体と韻文体、常体と敬体などのように、文章を類型化することによる立場</p> <p>② 語句の使い方、文の長短、文章の展開の仕方などのように、書き手の個性が表れたものととらえる立場</p> <p>(5) 「工夫して書く」 ① 書く目的を実現するのにふさわしい文章の形態や文体、語句を選び、構成や展開、言葉遣いなど表現の仕方へ様々な工夫を凝らすこと</p> <p>② 語句の選択に当たっては、相手に応じて、より平易な語句を用いることが求められる場合や、和語を用いるか漢語を用いるかなど、文章の形態や文体にふさわしい語句を用いることが求められる場合がある</p>	<p>ア 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりすること。</p> <p>(1) 「話題や題材に応じて情報を収集」する ① 必要な情報を見通せること、その情報の入手方法についての知識をもっていることなどが必要</p> <p>② 様々な情報には、マス・メディアあるいはインターネットなどを通じて接することができる</p> <p>(2) 情報を「分析する」 ○ 収集した情報の正誤、適否などを吟味した上で、必要なものを適切に選択し整理すること</p> <p>③ 「自分の考えをまとめたり深めたりする」 ○ 収集し分析した情報を基にして、自分の考えを適切な形にまとめたり、事実についての認識や事実に向き合う態度を自らの内部に形成したりすること</p> <p>エ 目的や課題に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりすること。</p> <p>(1) 「言葉遣い」の工夫 ① 目的に応じた用語の選択、相手に応じた待遇表現の選択、場の状況や用いる機軸に応じた話し方の選択などを行う</p> <p>② 相手との関係によって成り立つものであり、相手との関係をつくったり維持したりするもの</p> <p>③ 相手の立場を尊重し、相手の考えをよく理解するとともに自分の考えをはっきり述べることにつながる</p> <p>(2) 「文体」の工夫 ○ 同じ内容の情報を話し言葉で伝えるか書き言葉で伝えるかの選択、場に応じた言葉の選択（くだけた言葉遣いをするか改まった言葉遣いをするかの選択、常体を用いるか敬体を用いるかの選択、和語を多くするか漢語を多くするかを選択など）、文章の形式の選択（章や節の構成の仕方、箇条書きや項目分け、見出しの付け方など）を適切に行う</p> <p>(3) 「など」 ○ はがき、封書、電子メールなどのメディアの選択などもあることを示している</p>
構成・記述	<p>イ 論理の構成や展開を工夫し、根拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。</p> <p>ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を選んで書くこと。</p> <p>(1) 「A話す・聞く」の(1)のアと関連を考慮して、指導する必要</p> <p>(2) 「論理の構成や展開を工夫」する ① 説得力のある文章を書き、自らの考えを相手に納得させ、同意や共感を得るために欠くことができない</p> <p>② 「構成や展開」を併置しているのは、文章を書くためには書き手が自らの思考の進め方を整理し、文章を論理的に組み立てていく必要があることを明示するため</p> <p>③ 「序論－本論－結論」「現状認識－問題の解決－結論－展望」などという文章の組み立てや進め方、論を統括する位置による頭括型、尾括型、双括型という文章の型など</p> <p>(3) 「論拠」＝論が成り立つ根拠のこと</p> <p>(4) 「論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる」 ① 自分の考えが確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開された文章を書くこと</p> <p>② 考えの妥当性を裏付け、客観性や信頼性の高い資料を用いて、自らの論が成り立つ根拠を示すことが必要 ⇒このことは、書くことの学習では極めて重要</p> <p>(5) 文章を書き進める中で、自分の考えがまとまってきた、更に緻密なものにしたいものになっていくことを、生徒に実感させることも大切</p> <p>(6) 「対象を的確に説明したり描写したりする」 ① 「説明」 ・ 出来事や状態などを対象に忠実に正確に、順序や論理を追って読み手によく分かるように書く方法 ・ 事実や事柄、方法を具体的に説明する場合、手順や理由を論理的に説明する場合などがある</p> <p>② 「描写」 ・ 物事の様子や場面、行動や心情などを、読み手が言葉を通してありありと想像できるように書くこと ・ 情景描写、人物描写、心理描写などがある</p> <p>—現代文Bの欄へ</p>	<p>ウ 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書くこと。</p> <p>(1) 「効果的」 ① 伝達すべき内容がよく伝わるよう分かりやすく表現することに重点</p> <p>② 「論理の構成や描写の仕方などを工夫」することが一層必要</p> <p>(2) 自分の考えを主張する際求められること ① 内容を確実な根拠に基づいた妥当な推論によって導き、それを明瞭に示すこと</p> <p>② 論理性と明晰性は、主張の根拠となる材料の収集、選択、構成から記述に至るすべての過程で求められる</p> <p>③ 最初に主張を述べ、二番目に根拠となる分かりやすい具体例を精選して挙げ、三番目に一つ一つの根拠についての確かな簡潔に説明し、最後により分かりやすい裏付けを加えて相手に説得するなどという、抽象度を徐々に低くするような論理の構成についての工夫が大切</p> <p>(3) 感動を表現する際求められること ① 触発する契機となった人物や事件、自然などの、何が、どのような印象を与えたのか、その特徴はどうであったのかなどを的確に把握し、読み手に、実際にそれを見聞きするのと同様のイメージや印象を与えるよう描写をする</p> <p>② 全体的な特徴や部分的な特徴を具体的に描き、相手に確かなイメージを与えるなどの工夫が大切</p>	<p>—国語総合の続き</p> <p>③ 説明の方法をとるか描写の方法をとるか、記述の対象、相手、目的などによって異なるので、両者を区別し効果的に使い分けしていくことが大切</p> <p>(7) 「的確に」 ○ 間違いなく、過不足なく説明や描写をするということ</p> <p>(8) 「適切に」 ○ 記述の対象、相手、目的などによって、説明や描写を効果的に使い分けするなど、目的や場ふさわしいという意味</p> <p>(9) 「表現の仕方」 ○ 文章の形態や文体、語句などを工夫することをはじめとして、簡潔な述べ方や丁寧な述べ方、断定的な述べ方や婉曲的な述べ方、さらに論理的な文章での中心的部分と付加的な部分との関係や事実と意見との関係、文学的な文章での描写の仕方や比喩をはじめとした表現の技法など、記述にかかわる表現全般のこと</p>

	<p>エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、もの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>(1)「A話すこと・聞くこと」(1)エとの関連を考えて指導する</p> <p>(2)「優れた表現」</p> <p>①文章の内容にかかわる個性的なもの見方や考え方 ②発想の豊かさや観察の鋭さ ③構成や展開の着実さや意図性 ④主語と述語の対応や修飾語と被修飾語の適切な関係 ⑤表現意図の明確な文末表現 ⑥読み手を意識した適切な用語や引例 など</p> <p>(3)「条件を考える」</p> <p>○上記の「優れた表現」の条件を備えた文章に接して、文章を単に受け身に享受するだけでなく、書くという立場から分析すること</p> <p>(4)書くことの指導は、単に書くことだけでは十分とは言えない。読むこととの指導との関連も必要となる。生徒が常に多くの文章に接して様々な表現に触れるようにするとともに、文章から、発想の豊かさ、構成や展開の工夫、表現の特色などをとることができるようになることが大切</p> <p>(5)「自己評価や相互評価」</p> <p>○自分や他者の表現を客観的に吟味、評価する能力を育成し、表現する能力を一層伸ばすことに役立つ</p> <p>(6)「相互評価」</p> <p>①生徒同士の交流の活性化を促し、他者のもの価値観などが出会う契機となる ②個々の生徒の実態に十分配慮した学習過程を設定し、互いに学び合う態度や、互いの評価を認め合う雰囲気や大切にすることを指導が必要</p>	<p>オ 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合ったりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、もの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>(1)「様々な表現」</p> <p>①文章の種類や類型における多様性 ・「文章」… 語文と口語文、韻文と散文、和文体の文章と漢文体の文章と翻訳体の文章、実用的な文章と芸術的な文章、論理的な文章と心情的な文章などがある ②修飾的観点における多様性 ・「表現技法」… 比喩、反復、倒置、省略、対句など ・「文章の構成や展開」… 頭起型や尾起型、演繹法や帰納法など</p> <p>(2)「効果」</p> <p>①文章や話し言葉がその場の目的のために発揮する効果 ②表現主体がその個性を発揮し、その場の目的を達成するために意図した効果 ③個々の表現の技法が表現全体を構成する上で発揮する効果</p> <p>(3)「吟味」する</p> <p>○様々な表現に触れ、対象を分析的に読み聞いたりして、それぞれの表現が発揮している効果を検討すること</p> <p>(4)交流… 「国語総合」の相互評価を行うことを踏まえ、批評する</p> <p>(5)「自分の表現や推敲に役立てる」</p> <p>①交流などによって得た成果を、自らの書くことの活動や、書いたものを推敲する活動に生かすこと ②「国語総合」で指導している自分の表現に役立てるだけでなく、推敲に役立てることも明示している</p>	<p>カ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。</p> <p>(1)「国語総合」(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) (1)イ(イ)を踏まえ</p> <p>(2)語句の意味、用法や語彙の指導については、言葉による認識の可能性を広げ、思考を深め感受性を豊かにすることに一層つなげていく必要がある</p> <p>(3)「文体」</p> <p>①文章を類型のこらえる立場 ②書き手の個性が表れたものととらえる立場</p> <p>(4)「修辞」</p> <p>①書き手が自分のもの見方、感じ方、考え方を、より効果的に表現しようとする言語的活動 ②漢字、平仮名、片仮名、ローマ字といった文字表記 ③和語、漢語、外来語の中からの適切な用語の選択 ④文体の選択 ⑤文章の構成や展開の選択 ⑥比喩、反復、倒置、省略、対句など表現の技法</p> <p>(5)言語的活動や技法を理解し、適切にかいこなすことは、話したり書いたりする活動を豊かなものにする</p> <p>(6)「自分の表現や推敲に役立てる」</p> <p>○上記のことを、自ら表現する際や推敲する際に使いこなすことを示している</p>
<p>イ 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくりたり随筆などを書いたりすること。</p> <p>ウ 辞典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。</p> <p>エ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p>	<p>イ 詩歌をつくりたり随筆などを書いたり、鑑賞したことをまとめたりすること。</p> <p>ウ 関心をもった事柄について調査したことを整理して、解説や論文などにまとめること。</p> <p>エ 相手や目的に応じて、紹介、連絡、依頼などのための話をしたり文章を書いたりすること。</p> <p>オ 話題や題材などについて調べてまとめたことや考えたことを伝えるための資料を、図表や画像なども用いて編集すること。</p>	<p>イ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。</p>	<p>イ 論理的な文章を読んで「意見を書く」</p> <p>①文章の中で述べられている主張が、確実な根拠に基づいた妥当な結論を伴って導かれているかどうかを読み取り、その適否を判断するなど、文章の内容と、論理の構成や展開との相関関係を文章全体の明晰さに寄与しているかなどを考察する</p> <p>②単に文章の内容を読み取るということにとどまらず、書き手の表現意図や読者についての意識が、表現の仕方などにどのようにつながっているのかについて自分の意見をもつという能動的な学習につながる</p> <p>③意見を書く際には、事実と意見を明確に書き分けること ④結論の述べ方や、具体的な事例の挙げ方など、文章の構成や展開にも工夫を凝らすことが大切</p> <p>2表現の仕方考えたり、創作的な活動をしったりする言語活動</p> <p>①メディアの「特色をとらえる」</p> <p>・個々のメディアとしての文字、音声、画像などの表現の仕方の特色を把握することのみならず、新聞記事やテレビのニュース、映画などは、文字、音声、画像などがかわり合って情報を表現していることに気づくこと ・身の回りの様々な表現に目を向けるとともに、これまでの指導で身に付けた能力を総合的に活用する必要がある</p> <p>②「目的に応じた表現の仕方考え」</p> <p>・伝えたい情報を表現するためのメディアのそれぞれの特色を踏まえ、目的や場に応じて、ふさわしいメディアを選択すること</p> <p>③「創作的な活動」</p> <p>・目的や場に応じたメディアを用いて、自ら表現活動を行うこと ・生徒の学習意欲を高め、主体的な読書や表現へといざなうもの ・文学的な文章を読んでその内容を戯曲や脚本に翻訳したり、実際に演じたりすること、読んだ本の紹介を、書評、本の帯、広告カード(ポップ)などによって行うことなども含まれる</p> <p>3課題を探究し、成果を発表したり編集したりする言語活動</p> <p>①主体的に学習に取り組む態度を育成するためには、与えられた課題について学習を進めるだけでなく、それまでの学習経験や身に付けた能力などを生かしながら、課題を自ら設定し探究していく学習が大切</p> <p>②文章を読んだ後の生徒の興味・関心のもち方は多様であり、設定する課題も、内容、表現の両面にわたる</p> <p>③「様々な資料を調べる」</p> <p>・学校図書館、地域の図書館、インターネットなどで参考となる資料を調べたり、現地に赴き取材したりするなど、様々な方法によって課題に関する情報を収集、整理し、それについて分析、考察を行うことである</p> <p>④「発表したり報告書や論文集などに編集したりする」</p> <p>・成果の公表の仕方 ・文章にまとめて報告書や論文集に編集することは、一連の学習について成就感を味わわせ、生徒の学習意欲を高めることにつながる ・報告書や論文集の編集に当たっては、一人の生徒のものを編む場合、グループごとやホームルーム全体など、複数の生徒のものを編む場合などがある ・この言語活動は、生徒を学問の世界の入り口に立たせることになり、大学や社会で調査研究などを行い、その成果を発表する基礎ともなる</p>
<p>イ 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくりたり随筆などを書いたりすること。</p> <p>ウ 辞典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。</p> <p>エ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p>	<p>(1)詩歌や随筆などを書く言語活動</p> <p>①物事を見つめ、思考し、想像し、構想し、それを表現する活動の一層の充実が大切</p> <p>②「情景や心情の描写を取り入れ」ることが前提</p> <p>③語句の選択や表現の仕方を工夫したり、出来事や経験のもつ意味を問い直し、自らのもの見方、感じ方、考え方をよく直したり深めたりすることができる</p> <p>2説明や意見などを書く言語活動</p> <p>①事実や事柄と、自分の考えや意見を明確に区別して書くことが求められる</p> <p>②説明や意見などを書く際には、様々な「文章や図表などを引用」することが多い</p> <p>③引用については、小学校第3学年及び第4学年「C読むこと」、第5学年及び6学年「B書くこと」で取り上げ、以降、継続して指導している</p> <p>④引用が、伝えたい内容をより明確にする役割を果たしているが、自分の考えの根拠としてふさわしいかなどについて、生徒に判断させることが大切</p> <p>⑤適切な引用をさせるためには、学校図書館や地域の図書館などを活用して、なるべく多くの資料に触れさせる</p> <p>6引用の際</p> <p>・「」でくくるなど引用箇所がよく分かるようにすること ・引用する文章が適切な量であること ・「出典を明示」することが、著作権を尊重し保護することになる</p> <p>3手紙や通知などを書く言語活動</p> <p>①「相手や目的に応じた語句を用いる」</p> <p>・主に待遇表現や、年齢や対象に応じた語句の選択などを適切に行うこと</p> <p>②「手紙や通知など」</p> <p>・近況報告的な私信から宣伝を兼ねた通知まで、多種な種類がある ・だれに対して何のためにその文章を送るのかなど、相手や目的を明確にし、それに応じた文章の構成や展開、表現の工夫をすることが必要</p> <p>③「相手や目的に応じた語句を用いる」</p> <p>・手紙や通知などを書くための基本 ・日常生活の中で様々な文章を読むなどして、不断に語彙を豊かにしていく必要がある ・語句の正しい意味や使い方を理解していることにより、その場ふさわしい語句の選択が可能となる</p>	<p>(1)詩歌や小説の創作、鑑賞したことを書く言語活動</p> <p>①小説や物語を詩歌に、詩歌を小説に、古文や漢文を小説に書き直すことなども含まれる</p> <p>②文学的な文章を受容するだけでなく創作をすることは、言語文化の創造へ参画する意識を高めるという意味でも効果がある</p> <p>③「鑑賞」</p> <p>・対象・音楽、美術、工芸、書道、建築など ・「鑑賞」とは、対象を理解し味わうこと ・自分の見方や感じ方に基づいて想像を働かせて作品に接することで、作品に対する見方が深まり、新たな発見をして感動したり、自分にとっての価値をつくり出したりすることができる</p> <p>④「鑑賞したことをまとめる」</p> <p>・対象とした作品からとることができた、作り手の意図や表現の仕方、作品から感じた印象や感想のみならず、そこから新たに発想したり構想したりしたことなどを自らの表現で示すこと</p> <p>2調査したことを整理して、解説や論文にまとめる言語活動</p> <p>①「解説や論文」は、内容が正確であり、さらにそれが妥当な論拠に基づいたものであることが求められる</p> <p>②「調査したことを整理」する</p> <p>・収集した情報を無批判に受け入れたり用いたりすることなく、多角的に分析、考察して必要なものを取舍選択し、解説や論文などにまとめる際の資料として活用できるように整理・整えること ・必要に応じて、過去の事例や理論的背景などについても調べた上でまとめる</p> <p>③学校図書館や地域の図書館などで情報を収集したり、日々の報道やインターネットなどを活用したりすることも有効</p> <p>3紹介、連絡、依頼などの表現をする言語活動</p> <p>①「紹介」… 推薦書、本の紹介、部活動の紹介、製品のカタログ、広告、宣伝など</p> <p>②「連絡」… 個人あての文書、掲示、ホームルーム便り、生徒会便り、図書館便り、回覧、ミニコミ紙など</p> <p>③「依頼」… 様々な用件を人に頼むこと、個人的なもの、公的なもの</p> <p>④箇条書きにする、図表を入れる、キャッチフレーズを用いるなど、社会生活で実際に役立つような工夫をする</p> <p>⑤挿絵やカットなどの画像を入れて、楽しく見て読めるものにするなどの工夫は、表現の楽しさや喜びを与えることにもなる</p> <p>4図表や画像などを用いた資料を編集する言語活動</p> <p>①「話題や題材」</p> <p>・身の回りの事柄や、社会、自然、芸術などの中から、自分なりの課題意識をもって見つけることが大切 ・毎日の生活の中で起こる出来事、新聞やテレビなどで取り上げられている社会の様々な出来事、人間を取り巻く自然環境、音楽や美術、書道の作品などについて課題意識をもつこととによって、様々な話題や題材を探ることができる</p> <p>②「図表や画像」</p> <p>・言語を直接的に用いてはいないが、言語を用いた説明をより分かりやすくするための補完的な役割を果たす ・言語を用いて伝えること以上の情報を提示することもでき、分かりやすく伝える上で有効である ・コンピュータを活用し、作成や編集を行うことも効果的 ・図表や画像は、言語によるよりよい伝達のための補完的な資料であり、図表や画像をつくることを目的とした言語活動とされないよう留意する必要がある</p>	<p>イ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。</p>

同一言語活動の系統表例 「説明的文章を書く」

段階	課題設定	取 材	構 成	記 述	推 敲	交 流						
小学校 低学年 説明文	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事物 (のりもの、おもちゃ、生きもの、人物、好きなこと…) ○各教科等の学習、学校生活や家庭生活で慣れ親しんでいる事物 ○経験したこと、感動したこと、疑問に思ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○思い出す ○想像する ○ノートやカードにメモ 	<table border="1"> <tr> <td>はじめ</td> <td>説明する事物 (もの名前、理由) 問題提起 (問いかけの言葉)</td> </tr> <tr> <td>なか</td> <td>事柄の順序 (手順、理由、例…) つなぎ言葉</td> </tr> <tr> <td>おわり</td> <td>全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い</td> </tr> </table>	はじめ	説明する事物 (もの名前、理由) 問題提起 (問いかけの言葉)	なか	事柄の順序 (手順、理由、例…) つなぎ言葉	おわり	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い	<ul style="list-style-type: none"> ○一文の意味が明確になるように ○語と語や文と文とのつながりも考えさせる ○長音、拗音、促音、撥音などの表記ができる ○助詞「は」「へ」「を」の使い方 ○句読点、かぎ(「」)の使い方 ○主語と述語の関係 ○敬体に慣れる 	<ul style="list-style-type: none"> ○話題や取材の絞り方、事柄の順序、語と語及び文と文とのつながりの明確さ ○語句の使い方などに注意しながら、一文一文を丁寧に読み返す ○記述の間違った点に気づき、直す 	<ul style="list-style-type: none"> ○書いたものを読みあい、感想を伝え合う ○書いてきた過程の全体を、読んでもらった相手の感想を受けて振り返る
はじめ	説明する事物 (もの名前、理由) 問題提起 (問いかけの言葉)											
なか	事柄の順序 (手順、理由、例…) つなぎ言葉											
おわり	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い											
小学校 中学年 資料を使った 説明文	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に興味や関心をもっていること (遊園地、道具の使い方、手品のタネ…) 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手 (その場を共有しない特定又は不特定の人) や目的を意識し、必要なことを調べる ○一層知識を得るなど、必要なことを取材する ○本や文章、リーフレット、インタビュー、具体物などから適切な方法を選択 	<ul style="list-style-type: none"> ○リーフレット等の様式 ○説明文の様式 <table border="1"> <tr> <td>はじめ</td> <td>話題提示 問題提起</td> </tr> <tr> <td>なか</td> <td>段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由</td> </tr> <tr> <td>おわり</td> <td>全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い</td> </tr> </table>	はじめ	話題提示 問題提起	なか	段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由	おわり	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い	<ul style="list-style-type: none"> ○書くこととすることの中心を明確にする ・文章全体の中心となる内容 ・中心となる段落 ・各段落の内容の中心 ○目的や必要に応じて、中心に対して ・原因や理由 (なぜかという～、その理由は～、～のためである) ・分かりやすく説明するための事例 (エピソード、実例、事物⇒例えば～、事例を挙げると～、～などが当たる) ○常体と敬体(文末表現) ○段落の始め、会話の部分などが必要な箇所は改行する 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導事項ア～エを基に推敲の視点を明確にする ○主語と述語、修飾語と被修飾語の関係の明確さ ○長音、拗音、促音、撥音、助詞などの表記の仕方 ○文末表現 (敬体と常体、断定や推量、疑問など) ○相手や目的に応じているか ○自分の考えを明確に記述しているか ○下書きと推敲後の文章を比べる 	<ul style="list-style-type: none"> ○推敲して書き終えた文章だけでなく、学習計画や取材、構成の段階のメモなど、学習過程についても発表し合う ○相手について配慮したことや、記述の仕方などで工夫したことなども紹介する ○自分の考えがなぜそのような考えに至ったのかというきつかけについても交流する
はじめ	話題提示 問題提起											
なか	段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由											
おわり	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い											
小学校 高学年 課題→ 調査→ 意見文 (提案) 報告文 (議案)	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域、学校生活での学習などで感じたこと ○比較したり関係付けたりしながら課題意識を明確にしてい ○目的や意図から話題を考えられること ○以前からの疑問や課題から目的や意図を設定することもある 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、取材内容や方法を考える ○情報検索したり取材したりした事柄を、構成や記述に役立つように整理する ○取材の対象や方法 ・本や文章 ・パンフレット ・雑誌や新聞 ・音声や映像 ・インタビュー ・アンケートなど 	<table border="1"> <tr> <td>冒頭部</td> <td>話題提示 (読み手の関心を喚起する事例) 問題提起</td> </tr> <tr> <td>展開部</td> <td>まとめ (概説や要約) 段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由</td> </tr> <tr> <td>終結部</td> <td>全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い</td> </tr> </table>	冒頭部	話題提示 (読み手の関心を喚起する事例) 問題提起	展開部	まとめ (概説や要約) 段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由	終結部	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い	<ul style="list-style-type: none"> ○「事実」と自分の感想、意見などと区別して書く ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見などを詳しく書いたり、簡単に書いたりする ○出来事などの描写と、科学的な観察や実験、調査結果の説明などとの表現の違いを考えて工夫する ○引用 (「」でくくる) ・自分の考えを根拠付けたり、具体的な例を示したりする ・原文に正確に行う ・引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にする ・出典を明記する ・適切な量 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを明確に表しているか ○相互関係が明確な構成か ○表現の曖昧さ ○読者が理解しやすいようにさらに改善できる部分 ○読み手の立場から文章を客観的に評価する ○自己評価に加えて相互評価を積極的に位置付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表＝記述内容に加え ・書くこととした意図 ・誰に、どのような目的 ・どのような表現を用いたのかを述べる ○助言 ・目的や意図に応じた文章構成や表現になっているか ・修正すべき内容 ・具体的にどのように書き換えればよいか ・自分の考えを深めたり表現の参考にしたたりする ○よさを感じ取ることを大切に
冒頭部	話題提示 (読み手の関心を喚起する事例) 問題提起											
展開部	まとめ (概説や要約) 段落相互の関係 累加、並列、具体的な事象、抽象的な事象、結論の理由											
終結部	全体のまとめ 問題提起の答え 考え、思い											

マトリックス型年間指導計画表例（中学校第1学年「書くこと」）

月				6月	8月	12月	2月
時数（年間30～40時間）				5	5	10	10
教科書教材名							
4月				分かりやすく説明しよう 観点を決めて書く	項目を整理して伝えよう 案内文をつくる	調べたことを報告しよう レポートにまとめる	感じたことを文章にしよう 鑑賞文を書く
5月							
6月 分かりやすく説明しよう～観点を決めて書く							
7月							
8月 項目を整理して伝えよう～案内文をつくる							
9月							
10月							
11月							
12月 調べたことを報告しよう～レポートにまとめる							
1月							
2月 感じたことを文章にしよう～鑑賞文を書く							
3月							
(1) 指導事項				紹介文	案内文	報告文	鑑賞文
課題 設定 や 取材	ア	日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。	日常生活から課題を決める	○		◎	○
			材料を集めながら考えをまとめる	○		○	○
構成	イ	集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。	材料を分類・整理する	○	○	○	○
			段落の役割を考えて文章を構成する	○			◎
記述	ウ	伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。	考えや気持ちを書く		○		◎
			根拠を明確にして書く	○		◎	○
推敲	エ	書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。	漢字や語句を正しく使う	○	○	○	○
			表現を工夫して分かりやすい文章にする	◎	◎	○	○
交流	オ	書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること	文章を読み合い意見を言う、表現に生かす	○	○	◎	◎
(2) 言語活動							
ア	関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。						○
イ	図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。					○	
ウ	行事等の案内や報告をする文章を書くこと。				○		
エ	その他			○			
単元を貫く言語活動				私の好きな言葉を紹介する文章を書く	文化祭の家族への案内文を書く	レポートの様式に合わせてまとめる 日常生活の中から課題を見つけ、レポートの様式に合わせてまとめる	お気に入りの美術作品の鑑賞文を書く

単元構想表の書き方

〇〇校第〇学年単元構想（発行者名；「教材名」）

日付
作成者 所属・氏名

【児童・生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

- この単元で身に付けさせたい力に関わって、何が身に付いていて、何が身に付いていないのか。
- この単元における身に付けさせたい力や言語活動に関わって、どのような学習歴があり、その結果どうだったのか。（学習の様子や学習の結果）
- この単元で児童生徒にプラスしたいものは何か。

- ◎「書くこと」の目標：どんな目的や意図に応じて
- どんな能力を身に付けさせるのか（内容の記号）
- 内容すべてではなく、本単元で取り上げる中心となる内容を取り上げる

【単元を貫く言語活動】

言語活動例を参考にしながら、この単元における言語活動を具体的にまとめる。

【言語活動の特徴】

- 取り上げた言語活動の一般的な特徴を説明する。
- 構想者が創意工夫を凝らして考えた言語活動であれば、その言語活動について読者が理解できるようにその様式や内容について説明する。
- 言語活動の特徴や様式・内容が身に付けさせたい力を付ける上で、どのように有効なのか説明する。
- 言語活動の特徴や様式・内容と身に付けさせたい力との関連から、どのように指導したいのか説明する。

- 1 単元名** ○教科書単元にとらわれず、児童生徒の実態や興味・関心、身に付けさせたい力から単元名を付ける。
- 言語活動と身に付けさせたい言語能力をミックスさせて考える。
 - 児童生徒が理解できる表現とし、単元名は児童生徒にも示す。

- 2 単元の目標** この単元の学習を終えた時に、児童生徒がどのような姿になっていけばよいのかを想定して、文末表現を「～できる」という形で表す。

3 単元の評価規準

- 「書くこと」の単元では、【国語への関心・意欲・態度】、【書く能力】、【言語についての知識・理解・技能】⇒高等学校では【知識・理解】の3観点は必ず設定すること。
- 複合単元とする場合に、【話す・聞く能力】や【読む能力】を加える場合もある。
- 国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考として設定する。
- 「指導事項×言語活動」で、具体的に設定する。

（例）小学3・4年 書くこと

指導事項イ 「～段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」

言語活動例イ 「疑問に思ったことを調べて報告する文章～」

評価規準 △段落相互の関係などに注意して、「はじめ—中—おわり」の文章構成を考えている。（不十分）
○「調査目的や方法—調査結果—そこから考えたこと」など、調査報告文の構成上の特徴を踏まえて、構成を考えている。

- 4 教材** この単元で使用する教材名を記す。可能な限り出版社名等も記す。

5 単元の展開 (全 ○ 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・書・言 or 知) 等
第0次		<p>○すべての単元に位置付ける必要はないが、児童生徒を単元の学習に誘う段階として工夫が求められる。</p> <p>○単元の学習に入る前に、単元の言語活動や学習材について児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容について考えさせたり予備知識をもたせたりすることが考えられる。</p>	
第1次	第1時	<p>これまでの学習経験を振り返らせ、 1学習課題を設定したり、2表現様式上のモデル学習をしたりする。</p>	<p>□特に、【関心・意欲・態度】は、本時の評価規準として設定したい。</p> <p>○モデルの質が言語活動充実の決め手</p> <p>教師が自分の知識・技能や経験のみに頼って作成するのではなく、本や新聞など、実社会で評価されているものを手本として、子どもの実態に合わせてモデルを作成することが望ましい。実社会からモデルとなる表現を子ども自身が探す工夫も考えられる。</p>
	第2時	<p>○単元の導入にあたる。児童生徒の興味・関心を高める工夫や、児童生徒に単元の学習過程や学習のゴールを見通させる工夫が求められる。</p> <p>3単元の学習計画を立てる。</p> <p>○必要に応じて単位時間を設定する。学級としての学習計画を立てることとなる。</p>	
第2次	第1時	<p>4個人課題を選択し、5取材する。</p> <p>○学級の学習課題に沿って、個人課題を設定し、取材することとなる。</p>	<p>□【関心・意欲・態度】や【書く能力】、【言語についての知識・理解・技能 or 知識・理解】を本時の評価規準として設定する。</p> <p>□必ずしも、毎時間すべての観点を設定する必要はない。</p> <p>□単元の評価規準をそのまま設定したり、単元の評価規準を分割したり具体化したりして設定する。</p> <p>○「書くこと」は個人の学習に終始してしまうことが考えられるが、学習過程における「推敲」や「交流」の段階のみでなく、すべての単位時間において、学級全体で教師が中心となって子どもの発言をつなげるような授業ではなく、子どもどうして充実した学習ができるように指導を工夫する必要がある。</p>
	第2時	<p>○個人課題が取材によって解決できるか、取材可能な課題であるかが、適切な課題であるかどうかの判断材料のひとつとなる。</p>	
	第3時	<p>6モデルを分析し、7構成を考え、8記述する。</p> <p>○構成や表現を考える上で、再度、モデルを基に構成や表現を分析する。</p>	
	第4時	<p>○モデルを参考にし、構成を考えて記述する。構成力や記述力を高めるためには、指導の工夫が必要である。子どもどうしての交流も工夫のひとつとなる。</p> <p>9推敲し、10清書する。</p> <p>○第一原稿は長めに書かせ、第二、第三原稿を書かせる際に推敲しながら精選していく方法や、相互に推敲するなどの工夫が考えられる。</p> <p>○清書は、最終の推敲であることを意識させる。</p>	
第3次	第1時	<p>11相互交流する。</p> <p>○書かれた内容だけでなく、表現の仕方等や各過程において感じた事柄等を交流する。</p>	<p>□単元の構想にふさわしく、【関心・意欲・態度】や【書く能力】、【言語についての知識・理解・技能】を本時の評価規準として設定したい。</p> <p>○自分の力をさらに高め、実生活に生きてはたらく力に結び付けることができるように工夫する。</p> <p>○次単元への課題を明らかにし、学びの連続性を意識する。</p>
	第2時	<p>12単元の学習を振り返る。</p> <p>○「何を学んだか、上手く表現できたか、分からなかったこと・できなかったことは何か」等の成果や課題を確認する。</p>	
第4次		<p>○すべての単元に位置付ける必要はないが、児童生徒の国語に対する興味・関心を高めたり、実社会に役立つ有用感を味わわせたりする段階として工夫が求められる。</p> <p>○学級の学びを同学年や他学年に広げたり、家庭や地域に広げたりすることが考えられる。大切なのは発信するだけでなく、受け手の感想など学習に対する評価を、児童生徒にフィードバックすることである。</p>	

○この研究では、単元の段階を3段階と考え、単元の導入を第1次、単元の展開を第2次、単元の終末を第3次と呼ぶこととしている。これに付け足して、単元の学習(授業)に入る前段階を第0次、単元の学習(授業)後あるいは発展的段階を第4次と呼ぶこととしている。

【引用文献】

- 国立教育政策研究所 (2012), 『全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ
～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～ (小学校編)』, 教育出版
- 国立教育政策研究所 (2012), 『全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ
～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～ (中学校編)』, 教育出版
- 文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説総則編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説総則編』, ぎょうせい
- 文部科学省 (2009), 『高等学校学習指導要領解説総則編』, 東山書房
- 文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2010), 『高等学校学習指導要領解説国語編』, 教育出版

【参考文献】

- 井上一郎 (2013), 『記述力がメキメキ伸びる!小学生の作文技術』, 明治図書
- 井上一郎 (2013), 『思考力・読解力アップの新空間!学校図書館改造プロジェクト』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 低学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 中学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 高学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2009), 『知識・技能を活用した言語活動の展開』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話すこと・聞くことの基本の能力の育成』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—上巻』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—下巻』, 明治図書
- 井上一郎 (2007), 『読む力の基礎・基本—17の視点による授業づくり—』, 明治図書
- 井上一郎 (2005), 『誰もがつけたい説明力』, 明治図書
- 井上一郎 (2005), 『「読解力」を伸ばす読書活動』, 明治図書
- 井上一郎 (2002), 『文学の授業力をつける』, 明治図書
- 井上一郎 (2002), 『ことばが生まれる—伝え合う力を高める表現単元の授業の作り方—』, 明治図書
- 上條晴夫 (2009), 『ワークショップ型授業で国語が変わる 小学校』, 図書文化
- 上條晴夫 (2008), 『ワークショップ型授業で国語が変わる 中学校』, 図書文化
- 上條晴夫 (2007), 『ワークショップ型授業が子どものやる気を引き出す』, 学事出版
- 樺山敏郎 (2013), 『実践ナビ!言語活動のススメ モデル30』, 明治図書
- 国立教育政策研究所 (2012), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校国語】』, 教育出版
- 国立教育政策研究所 (2011), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』, 教育出版
- 国立教育政策研究所 (2011), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校国語】』, 教育出版

富山哲也 (2013), 『〈单元構想表〉が活きる! 中学校新国語科授業&評価 GUIDE BOOK』, 明治図書
 富山哲也 (2011), 『〈单元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第1学年』, 明治図書
 富山哲也・杉本直美 (2011), 『〈单元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第2学年』, 明治図書
 富山哲也・三浦登志一 (2011), 『〈单元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第3学年』, 明治図書
 西辻正副 (2013), 『国語の授業を変える2 評価規準をどう生かすか 高校国語総合編』, 明治書院
 二瓶弘行 (2011), 『二瓶弘行の国語授業のつくり方』, 東洋館出版社
 二瓶弘行 (2011), 『二瓶弘行の「物語 授業づくり 一日講座」』, 文溪堂
 二瓶弘行 (2010), 『二瓶弘行の「説明文一日講座」』, 文溪堂
 水戸部修治 (2014), 『小学校国語科学習指導案パーフェクトガイド 1・2年』, 明治図書
 水戸部修治 (2014), 『小学校国語科学習指導案パーフェクトガイド 3・4年』, 明治図書
 水戸部修治 (2014), 『小学校国語科学習指導案パーフェクトガイド 5・6年』, 明治図書
 水戸部修治 (2013), 『小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド』, 明治図書
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 1・2年』, 明治図書
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 3・4年』, 明治図書
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 5・6年』, 明治図書
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集1・2年』, 小学館
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集3・4年』, 小学館
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集5・6年』, 小学館
 盛岡市立城南小学校 (2011), 『平成23年度国語科授業実践記録集』, 城南小学校
 盛岡市立月が丘小学校 (2012), 『平成24年度学校公開研究会 研究紀要』, 月が丘小学校
 盛岡市立見前南中学校・盛岡市立永井小学校・盛岡市立見前南小学校 (2013), 『学校公開研究会 研究紀要』, 見前南中・永井小・見前南小
 安居總子・東京都中学校青年国語部会 (2005), 『中学校の読書指導 読書生活者を育てる』, 東洋館出版社
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2013), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅲ』, 学事出版
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2012), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅱ』, 学事出版
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2011), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅰ』, 学事出版
 横浜市小学校国語教育研究会 (2014), 『小学校国語 6年間でみるみる「思考力」がつく! 「書くこと」の
 授業プラン&ワークシート』, 明治図書
 横浜市小学校国語教育研究会 (2010), 『小学校国語 豊かな言語活動を図る単元の構想』, 東洋出版社
 横浜市立白幡小学校 (2013), 『平成25年度研究発表会 研究概要パンフレット』, 白幡小学校
 横浜市立白幡小学校 (2011), 『平成23年度PSY研究発表会 研究紀要』, 白幡小学校
 横浜市立並木中央小学校 (2012), 『国語 言語活動 実践アイデア集』, 小学館
 横浜市立並木中央小学校 (2012), 『研究紀要 第7号』, 並木中央小学校

おわりに

このガイドブックは、平成 25 年度に総合教育センターで発行した授業づくりガイドブック「読むこと編」に続けて「書くこと編」を作成したものです。

学習指導要領国語科改訂の趣旨に「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることに重点を置いた授業改善を図ること」とあり、具体的な内容として「社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などを行う能力の育成を重視すること」や「言語活動を通して指導事項を指導すること」など、授業改善の方向性が示されています。このことについて、全国的に学習指導要領を具体化する授業についての研究や実践が広がりつつあり、本県においても同じような状況にあるものの、その研究や実践が十分であるとは言い切れません。特に、児童生徒の 12 年間の学びの連続性の意識や、単元を貫く言語活動の充実についての理解には、まだまだ課題があると感じています。

このような状況を改善するには、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業についての理論と実践例をまとめることにより、目指すべき授業像や授業づくりの手法についての理解を広めていく必要があると考えました。そこで、この研究では、学習指導要領や先行研究等を基に、小学校、中学校、高等学校の指導の連続性や単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりに視点を当てた「学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の授業づくりガイドブック」を作成し、研修講座や研修会及び、校内授業研究会等での活用を促進することによって、小・中・高等学校国語科の授業改善に役立てようとするものです。

この研究は、平成 25 年度には指導主事 1 名、小学校教諭 3 名、中学校教諭 3 名、高等学校教諭 3 名、計 10 名の共同研究員、平成 26 年度には小学校教諭 2 名、中学校教諭 2 名、高等学校教諭 2 名、計 6 名の研究協力員ともに進めました。協力いただいたすべての先生方と所属するすべての学校に深く感謝申し上げます。

このガイドブックには、文部科学省前教科調査官の井上一郎先生や、文部科学省教科調査官の水戸部修治先生と富山哲也先生、国立教育政策研究所学力調査官の樺山敏郎先生、筑波大附属小学校の二瓶弘行先生から複数年・複数回にわたって学んだ内容が色濃く反映されています。5 名の先生方のご指導に厚くお礼申し上げます。

このガイドブックは、「平成 26 年度版」とあるように、諸方面の方々からの意見や疑問をお聞きしながら、小・中・高等学校の先生方が活用しやすく日常の授業づくりの参考にできるように、今後も改訂を重ねていく所存です。

平成 26 年度版学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック
子どもの記述力を高める単元をつくる「書くこと」編

平成 26 年度研究協力員（所属と職名は平成 27 年 3 月末日現在）

- | | |
|---------|-----------------|
| 八 幡 美奈子 | 盛岡市立松園小学校教諭 |
| 米 内 紀 子 | 花巻市立八重畑小学校教諭 |
| 西 澤 孝 司 | 岩手大学教育学部附属中学校教諭 |
| 吉 田 亜矢子 | 陸前高田市立横田中学校教諭 |
| 熊 谷 裕 子 | 岩手県立紫波総合高等学校 |
| 高 橋 美紀子 | 岩手県立黒沢尻工業高等学校教諭 |

なお、総合教育センターにおいては、次の者が作成に当たった。

- | | |
|---------|------------------------------|
| 長 根 義 広 | 岩手県立総合教育センター教科領域教育担当主任研修指導主事 |
| 横 田 昌 之 | 岩手県立総合教育センター教科領域教育担当研修指導主事 |

平成 26 年度版 学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック
子どもの記述力を高める単元をつくる「書くこと」編

発 行 岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当

〒025-0395 岩手県花巻市北湯口 2-82-1

☎0198-27-2735

発行日 平成 27 年 3 月 1 日

